

明治元年
一八六八

3・8(2・15)
9・3(7・17)
10・12(8・27)
10・23(9・8)

堺事件発生(三月一六日堺妙国寺で土佐藩士一人切腹)
江戸を東京と改む
明治天皇即位大札奉行
明治と改元 一世一元制となる

明治2年
一八六九

5・10(3・29)
12・12(11・10)

アメリカ最初の大陸横断鉄道完成
政府は鉄道建設を決定
(東京)京都間 東京)横浜間 京都)神戸間 琵琶湖)敦賀間

明治3年
一八七〇

1・26(12・25)
4・22(3・22)
4・25(3・25)
10・13(9・19)

東京)横浜間電信開通
和泉要助 人力車を發明 営業許可を受ける
官鉄 新橋)横浜間鉄道測量開始
平民に氏姓を許可

明治4年
一八七一

5・22(4・4)
6・27(5・10)
8・29(7・14)
9・7(7・)

戸籍法公布
新貨条例により一兩を一円と改称
廢藩置県の詔書(三府三〇二県)
阪神間鉄道 石屋川トンネル完成(鉄道ではじめて)

明治5年
一八七二

3・8(1・29)
4・3(3・)
10・14(9・12)

全国戸籍調査実施 全人口 三三二一万八二五人
高野山 女人禁制を解く
官鉄 新橋)横浜間開業式挙行

明治6年
一八七二

1・1(12・3)
1・10
8・1
10・1

太陽暦の実施 この日を明治六年一月一日とする
徴兵令公布
住吉公園開園
鴻池善右衛門ほか七名 大阪堺間鉄道の免許請願(不許可)
郵便はがき発売

明治7年
一八七四

2・6
5・11
10・11

閣議台湾征討を決定
官鉄 大阪)神戸間鉄道開通
新橋駅付近でポイント故障 機関車 貨車転覆(わが国はじめての列車転覆)

明治8年
一八七五

1・23
2・11
5・

大塚三郎平らに大阪堺間鉄道の建設を許可(不着手)
大阪会議開かれる
鉄道寮神戸工場で国産材料による客貨車製造(台車 台枠は輪

入)

明治9年
一八七六

3・28 廢刀令公布
4・12 大阪道頓堀で大火 六四八戸焼失 死者一五〇余人
12・1 官鉄 新橋〜品川間複線化完成

明治10年
一八七七

1・11 鐵道寮を鐵道局と改称
2・15 西南戦争ぼっ発
8・21 東京上野で第一回内国勸業博覧会開催
9・24 西郷隆盛自決 西南戦争終わる

明治11年
一八七八

3・11 鐵道局「鎮嘯丹」の広告を下等客車内に掲示することを児玉少介に認可(車内広告のはじめ)
5・14 大久保利通暗殺
12・15 鐵道局 京浜各駅で公衆電報の取扱開始

明治12年
一八七九

2・15 第三百三十国立銀行開業
4・14 京浜間で日本人機関士がはじめて列車運転
9・15 藤田組 ニセ札事件発生
この年鐵道局 京都〜大津間にはじめて鋼製平座レールを使用(従来は鍊鉄 双頭レール)

明治13年
一八八〇

2・17 釜石製鉄所 専用鐵道運転開始
6・28 官鉄 逢坂山トンネル はじめて日本人のみで完成
この年「弁慶号」輸入

明治14年
一八八一

5・8 官鉄 新橋〜横浜間複線開通
11・11 日本鐵道(現国鉄東北本線) 設立許可(資本金二〇〇〇万円) 東京〜青森間

明治15年
一八八二

3・1 釜石鐵道は旅客 貨物の運輸営業開始
6・25 東京馬車鐵道 新橋〜日本橋間開通
9・ 釜石製鉄所操業停止

明治16年
一八八三

4・20 大阪造幣局 桜の通り抜けを開始
6・30 工部省 釜石鉦山分局を廃止
7・28 日本鐵道 上野〜熊谷間開通

明治17年
一八八四

2・4 藤田傳三郎ほか一八名 大阪〜堺間鐵道敷設願書提出
1・9 大阪・内本町橋詰町で大火 一五〇〇戸焼失

当社

一般

明治18年 一八八五	2 18	阪堺鉄道起工	7 16	日本鉄道の宇都宮駅で駅弁発売
	12 14	臨時總會 松本重太郎は社長に 鳥井駒吉 佐伯勢一郎 肥塚與八郎 田中市兵衛は取締役就任	9 25	五代友厚逝去
	12 26	難波〜大和川間竣工 大阪府知事から特許命令書下付	12 22	太政官制度廢止 内閣制度創設 第一次伊藤博文内閣成立(内閣のはじめ)
	12 27	難波〜大和川間鉄道開通 開業式挙行	12 26	鐵道局官制を定め 一二月二八日 井上勝を初代鐵道長官に任命
	12 29	難波〜大和川間運輸營業開始		
明治19年 一八八六	3 18	難波 住吉 大和川各駅で下等往復切符発売	1 1	官鉄 新橋〜横浜間で上・中等に定期乗車券を発売(はじめての定期券)
	4 28	難波〜大和川間電話架設工事完成	7 19	中山道鐵道幹線を東海道線に変更
	11 15	阪堺鐵道(株) 資本金三〇万円となる(増加分金五万円)	12 14	大阪府は小学校職員員の月俸を定める(校長二二円〜三五円)
	12 24	大和川〜堺吾妻橋間の線路敷設を大阪府知事に出願 線路敷設 大阪府知事から許可		
明治20年 一八八七	2 15	皇后陛下 住吉神社へ行啓 難波〜住吉間ご乗車	5 18	私設鐵道条例公布
	5 14	大和川北岸〜吾妻橋間延長工事着工	12 10	大阪電灯設立
	6 18	難波停車場内に鍛工場竣工(車両修繕工場)		
	10 7	大洪水により大和川鉄橋架設工事遅れる		
	12 3	阪堺鐵道(株) 資本金三三万円となる(増加分金三万円)		
明治21年 一八八八	2 4	難波停車場焼失	2 23	高野山で大火
	3 16	大和川〜吾妻橋間電話架設工事完成	4 25	市制 町村制公布
	3 16	大和川〜吾妻橋間線路敷設竣工	4 30	黒田清隆内閣成立
	5 14	大和川〜吾妻橋間の運輸營業を鐵道局長(代理)から許可	10 28	伊予鐵道 外側(現松山市)〜三津ヶ浜間開通(四国最初の鐵道 輕便鐵道)
	5 15	大和川〜吾妻橋間營業開始		
	5 15	大和川停車場廢止	11 3	山陽鐵道(現国鉄山陽本線) 兵庫〜明石間開業
	9 15	難波停車場の復興工事竣工(二代目 煉瓦造)	12 3	全国の行政区画が行われる(一道三府四三県となる)
明治22年 一八八九	4 5	難波 堺停車場荷物倉庫完成	2 11	大日本帝国憲法發布
	5 9	紀泉鐵道(株)との堺停車場での接続の願書を内閣總理大臣に提出	4 1	大阪市制施行
	5 9	紀泉鐵道(株) 堺〜紀ノ川間鐵道敷設出願 發起人松本重太郎ほか一三名	4 1	堺市制施行
			4 1	和歌山市制施行

12・17 紀泉鉄道(株)発起人 阪堺鉄道(株)との合併交渉を開始

5・10 東海道線 下等列車に便所取付
5・14 大阪鉄道(現国鉄関西本線) 湊町〜柏原間開通
5・20 大阪電灯 点灯開始
7・1 東海道線 新橋(現汐留)〜神戸間全通
12・24 第一次山縣有朋内閣成立

明治23年 1・15 阪堺鉄道(株) 臨時総会で紀泉鉄道(株)との合併を決議
一八九〇

5・4 第三回内閣勸業博覧会でスプレイ式の電車を運転
8・25 軌道条例公布
9・6 鉄道局を鉄道庁と称し内務省の管轄となる
9・ 東京市に電話開通

明治24年 1・1 紀阪鉄道(株)出願 発起人佐々木政又ほか
一八九一 5・25 阪堺鉄道(株) 会社法の実施に伴い臨時株主総会を開催 役員改選
取締役肥塚與八郎 同田中市兵衛は監査役に就任 西田永助は監査役に就任
11・25 阪堺鉄道(株) 一株一〇〇円を五〇円に改む

5・6 第一次松方正義内閣成立
7・ 井上勝「鉄道政略二閣スル議」を提出 鉄道国有化主張
9・1 日本鉄道 上野〜青森間全通(二五時間半で走る)
12・1 中ノ島公園開設

明治25年 1・ 阪堺鉄道(株) 本社事務所を難波停車場の北側に新築
一八九二 8・16 阪堺鉄道(株) 難波〜住吉間複線工事認可
8・22 阪堺鉄道(株) 資本金四〇万円となる(増加分金七万円)
10・10 阪堺鉄道(株) 難波〜住吉間複線工事着工
12・26 阪堺鉄道(株) 難波〜住吉間複線の運輸営業を鉄道庁長官から認可
12・29 難波〜住吉間複線営業開始

2・2 大阪鉄道 奈良〜湊町間全通
4・ 松本重太郎 山陽鉄道社長に就任
4・14 大阪電話交換局開設
6・21 鉄道敷設法公布
7・21 鉄道庁を内務省から逓信省に移管
8・8 第二次伊藤博文内閣成立

明治26年 7・4 阪堺鉄道(株) 紀泉鉄道(株)と合併契約を締結
一八九三 10・7 堺橋鉄道(株) 敷設発起
10・12 紀泉・紀阪鉄道(株)合併 紀撰鉄道(株)と改称
11・4 紀撰鉄道(株) 発起人会開催 創立委員に松本重太郎ら一四名選出
11・13 紀撰鉄道(株) 発起申請書を通信大臣に出願

1・ わが国ではじめてゴム被覆電線製造(藤倉電線会社)
6・ 鉄道庁 神戸工場で複式B型タンク機関車完成(わが国はじめて)
8・12 文部省は学校の祝日大祭日儀式に用いる歌詞 楽譜を選定公示(君が代ほか八編)

明治27年 6・29 堺橋鉄道(株)は高野鉄道(株)と改称
一八九四 7・3 紀撰鉄道(株) 敷設仮免状が通信大臣から下付
9・7 高野鉄道(株)発起 仮免状下付
11・14 紀撰鉄道(株) 実地測量の義を関係部署に出願

4・12 大阪市は「みおつくし」を市章に定める
8・1 日清戦争ぼっ発

明治28年 8・25 南海鉄道(株) 創業総会を開催(資本金二八〇万円)
一八九五 松本重太郎を社長に 鳥井駒吉 佐伯勢一郎 肥塚與八郎 渡邊鐵心
佐々木政又 川端三郎平を取締役に 田中市兵衛 宇野四一郎 宮本

1・31 京都電気鉄道 京都市内軌道開業(わが国はじめての電車営業)
4・17 日清講和条約調印
7・10 熱海〜吉浜間 人車鉄道開業

当社

一般

8
吉右衛門を監査役に選出
同時に社名変更を決議し 紀伊鉄道(株)は南海鉄道(株)と改称
南海鉄道(株) 用地買取開始
阪堺鉄道(株) 監査役田中市兵衛は辞任 監査役西田永助逝去

明治29年
1896
1
19
阪堺鉄道(株) 宅徳平 木谷七平は監査役に就任

2
1
高野鉄道(株) 設立 発起人松方幸次郎ほか(資本金一五〇万円)
南海鉄道(株) 設立免許下付(二八年八月二五日創業總會での選出役員就任)

3
3
阪堺鉄道(株) 軌間三呎六吋に改築することを決定
阪堺鉄道(株) 堺までの線路改築を通信大臣に提出
高野鉄道(株) 設立免許下付
阪堺鉄道(株) 線路改築許可
南海鉄道(株) 客車 貨車八〇両製作開始

明治30年
1897
5
26
大阪馬車鉄道(株) 設立免許(資本金五万円)
阪堺鉄道(株) 難波〜住吉間線路改築工事着工(住吉〜堺間は南海鉄道(株)が改築)
8
4
南海鉄道(株) 貨物 手小荷物 郵便物託送賃金額認可出願
9
28
運賃制定 上等一哩につき二錢六厘 中等一錢九厘五毛 下等一錢三厘
10
1
南海鉄道(株) 堺〜佐野間開通
11
9
南海鉄道(株) 佐野〜尾崎間開通
12
14
阪堺鉄道(株) 難波〜住吉間線路改築工事竣工
12
15
阪堺鉄道(株) 住吉〜堺間複線開通
難波〜尾崎間直通運輸開始

明治31年
1898
1
26
高野鉄道(株) 堺東〜狭山間開通(一月三日日営業開始)
阪堺鉄道(株)は臨時株主總會を開催 一切の財産を南海鉄道(株)に譲渡することを決議(三月二六日日本契約締結)
3
4
南海鉄道(株) 取締役川端三郎平は辞任
3
7
南海鉄道(株) 資本金四〇〇万円となる(増加分金一二〇万円)
3
18
高野鉄道(株) 狭山〜長野間開通(四月二日営業開始)
3
29
南海鉄道(株) 初配当 明治三〇年下期配当率年四分強
5
30
南海鉄道(株) 上等 中等 下等を一 二等 三等と改称
9
30
難波 住吉 堺 各駅の荷物取扱所完成
阪堺鉄道(株)は解散(南海鉄道に対する譲渡契約の実行)

8
22
浪速鉄道(現国鉄片町線) 片町〜四条間開通
10
17
大阪鉄道(現国鉄大阪環状線) 天王寺〜梅田間開通

4
6
第一回近代オリンピッククアテネ大会開幕
4
18
奈良鉄道(現国鉄奈良線) 京都〜奈良間全通
9
28
大阪ガス創立
9
7
汽車製造設立
11
21
淀川大出水 市内水害
関西鉄道(現国鉄関西本線) 客車外側塗装を等級別に色分け

1
12
関西鉄道 客車に電灯を点する(従来は油灯)
2
15
第三次伊藤博文内閣成立
6
30
大阪歌舞伎座開業(大阪北区 明治三二年一月二日焼失)
9
22
第一次大隈重信内閣成立
11
8
山陽鉄道で列車給土の乗務開始
第二次山縣有朋内閣成立

10 10
22 1
南海鉄道(株)は阪堺鉄道(株)を吸収合併
尾崎と和歌山北口間開通

明治32年
一八九九
1 23
4 22
6 11
6 11
6 19
9 8
難波駅構内で火災 客車七両貨車一五両焼失
横山勝三郎は取締役に就任
資本金五〇〇万円となる(増加分金一〇〇万円)
天王寺支線 天王寺と天下茶屋間建設工事(複線)出願(九月一日認可)
暴風雨により被害大 貝塚以南不通となる(一三日全通)

5 11
5 25
6 12
8
河南鉄道(現近畿日本鉄道南大阪線) 柏原と富田林間開通
山陽鉄道 食堂車運転開始
摂津電気鉄道設立(七月七日阪神電気鉄道と改称)
山陽鉄道 夏期夜行一 二等旅客にカヤを貸す

明治33年
一九〇〇
1 6
1 26
8 30
9 20
10 26
11 29
12 30
天王寺支線工事着工
難波駅で公衆電報の取扱開始
高野鉄道(株) 汐見橋と堺東間開通(九月三日営業開始)
大阪馬車鉄道(株) 天王寺西門前と東天下茶屋間開通
天王寺支線開通(単線)
大阪馬車鉄道(株) 東天下茶屋と上住吉間開通
取締役に伯勢一郎は辞任

3 16
4 8
5 10
6 6
6 19
10 25
11 25
私設鉄道法 鉄道営業法公布(一〇月一日施行)
山陽鉄道 一等寝台車運転(わが国最初)
鉄道唱歌等第一集が出る(大和田建樹作詞)
関西鉄道は大阪鉄道を合併
第四次伊藤博文内閣成立
紀和鉄道(現国鉄和歌山線) 五条と和歌山間全通(二見と五条間は南和鉄道)

明治34年
一九〇一
4 4
5 2
5 5
7 2
10 5
はじめ定期切符および回数券を発売 回数券は普通切符の二割引
運賃改定 一等一哩につき二銭六厘 二等一銭七厘 三等一銭八厘(各等二割値上げ)
天下茶屋に客車庫設置
業務組織変更(二課 五掛制)
住吉と国鉄大阪駅間直通運転開始

5 27
6 2
6 16
11 11
山陽鉄道 神戸と下関間全通
第一次桂太郎内閣成立
官鉄 学生定期乗車券を発売
ガソリン自動車初輸入

明治35年
一九〇二
4 19
6 5
9 1
9 1
9 28
12 27
中川光實は取締役に就任
取締役に中川光實は常務取締役に就任
取締役に渡邊鐵心逝去
取締役に肥塚興八郎は辞任
付随客車三〇両新造
大阪馬車鉄道(株) 上住吉と下住吉間開通

1 23
1 23
7 7
9 25
弘前歩兵第五連隊第二大隊 青森八甲田で猛吹雪のため遭難
シベリヤ鉄道開通(ウラジオストクとハバロフスク)
官鉄 寝台車 食堂車に扇風機を取付
横須賀線でタイヤー氏 タブレット式閉塞機試用

明治36年
一九〇三
1 1
2 25
2 25
3 21
3 21
4 21
9 1
難波機関庫設置
第五回内国勸業博覧会開催につき「門前停車場」開設
和歌山機関庫設置
難波と和歌山市間全通
紀和連絡線 和歌山市と現国鉄和歌山間開通
難波と紀和鉄道二見駅 南和鉄道五条駅間急行列車運転(一日一往復)
明治三十六年上期配当率年一割

3 1
3 7
8 22
9 12
10 28
第五回内国勸業博覧会開催(天王寺公園・堺 七月三十一日まで 観覧者五三〇万人)
大阪市内の河川に巡航船運航
東京電車鉄道 新橋と品川間開通(東京ではじめての路面電車)
大阪市電 花園橋と築港棧橋間開通(日本ではじめての公営)
紀和鉄道 南海鉄道と鉄道売買仮契約締結(不成立)

1 1
2 25
2 25
3 21
3 21
4 21
9 1
第五回内国勸業博覧会開催(天王寺公園・堺 七月三十一日まで 観覧者五三〇万人)
大阪市内の河川に巡航船運航
東京電車鉄道 新橋と品川間開通(東京ではじめての路面電車)
大阪市電 花園橋と築港棧橋間開通(日本ではじめての公営)
紀和鉄道 南海鉄道と鉄道売買仮契約締結(不成立)

当社

一般

明治37年 6・17 取締役社長松本重太郎は辞任
 一九〇四 6・25 取締役鳥井駒吉は社長に就任
 黒崎海岸（淡輪）に海水浴場開設

2・10 日露戦争ばつ登
 6・17 第百三十銀行休業
 8・27 関西鉄道は紀和鉄道を合併

明治38年 1・29 取締役横山勝三郎逝去
 一九〇五 3・6 取締役中川光實 監査役宇野四一郎は辞任 村野山人 肥塚源次郎
 大塚性明は取締役に就任
 浜寺公園内に食堂を開設
 4・ 資本金五七〇万円となる（増加分金七〇万円）
 6・24 難波〜浜寺間 天下茶屋〜天王寺間 電化申請（九月二日認可）

2・5 泉北郡高石村に俘虜收容所建設
 4・12 阪神電気鉄道（軌道）出入橋〜三ノ宮間開通
 9・5 日露講和条約（ポーツマス条約）
 10・20 大阪市内にガス供給開始
 10・ 大阪日本橋〜堺市間に乗合自動車（蒸気）走る

明治39年 4・23 急行列車「浪速号」「和歌号」の運転開始 所要時間一時間五〇分
 一九〇六 4・23 急行列車 車内に食堂経営
 4・26 取締役社長鳥井駒吉は 監査役に就任 監査役田中市兵衛は社長に就任
 7・1 浜寺海水浴場開設（大阪毎日新聞社と提携）
 10・27 資本金七三〇万円となる（増加分金一六〇万円）
 11・1 大阪馬車鉄道（株）電化を内務大臣に出願

1・7 第一次西園寺公望内閣成立
 3・31 鉄道国有法公布 山陽 西成など一七鉄道会社国有化決定（二か年で終了）
 4・16 新橋〜神戸間 最急行列車運転 急行料金を徴収（はじめての急行料金）
 7・1 浜寺水練学校開校（大阪毎日新聞社）
 11・1 日本鉄道国有化
 11・1 京阪電気鉄道創立
 12・1 山陽鉄道 西成鉄道国有化

明治40年 1・1 一等車廃止 特等 並等となる
 一九〇七 1・1 天下茶屋に第二電車庫設置
 3・9 資本金八二〇万円となる（増加分金九〇万円）
 3・29 大阪馬車鉄道（株）は大阪電車鉄道（株）と改称 資本金五〇万円となる（増加分金四五万円）
 4・10 取締役大塚性明は常務取締役に就任
 4・11 監査役鳥井駒吉は辞任
 4・20 一九名の電車運転手 車掌見習 阪神電鉄で三か月の教習を受け帰社
 4・27 一七名の電車運転手 車掌見習 甲武線で教習を受けるため東京へ出張
 4・29 本山彦一 藤本清兵衛は取締役に 寺田甚興茂 宅徳平は監査役に就任
 5・19 取締役佐々木政文逝去
 8・21 難波〜浜寺公園間電化完成 電車九両新造（二両連結車走る）
 8・ 住ノ江に火力発電所設置（大正七年一〇月まで使用）
 9・21 高野登山鉄道（株）設立 社長寺田甚興茂（資本金七〇万円）
 10・29 大阪電車鉄道（株）は浪速電車軌道（株）と改称

7・7 大阪千日前の当栄座（第一電気館）が大阪初の常設映画館となる
 10・1 関西鉄道 参宮鉄道国有化
 10・19 箕面有馬電気軌道創立（現阪急電鉄）
 12・30 邦文タイプライター発売

天王寺支線電化完成 電車併用運転開始
 高野登山鉄道(株)は高野鉄道(株)を吸収合併
 南海本線(難波〜浜寺公園間)の手動信号機を廃し自動閉そく信号機を採用

明治41年 1・31
 浪速電車軌道(株)は電化着工 馬車営業廃止
 淡輪遊園内に汽車ホテル経営

5・20
 高野鉄道(株)長野遊園地開園式挙行
 伏見宮殿下 浜寺公園〜天下茶屋間ご乗車

明治42年 1・22
 和歌山水力電気(株)軌道線 県庁前〜和歌浦間開通
 1909 2・20
 天下茶屋第一電車庫新設

3・20
 取締役藤本清兵衛は辞任
 4・28
 監査役寺田甚與茂は取締役に就任 田中新七は取締役に 川井為己は 監査役に就任

7・21
 資本金八五万円となる(増加分金三四万円)
 12・28
 南海鉄道(株)は浪速電車軌道(株)を合併(同路線を上町連絡線と呼称)
 12・24
 阪堺電気軌道(株)敷設認可

明治43年 3・8
 1910 3・30
 阪堺電気軌道(株)設立 社長片岡直輝(資本金三〇〇万円)
 高野登山鉄道(株) 資本金二〇〇万円となる

7・25
 取締役社長田中市兵衛逝去
 7・30
 常務取締役大塚惟明は社長に就任
 8・1
 社債二〇〇万円発行(大正四年七月二九日償還)
 9・1
 軌道線電動客車三〇両新造
 10・1
 上町線 天王寺西門前〜住吉神社前間複線開通

明治44年 1・10
 1911 1・29
 加太輕便鉄道(株)設立 社長垣内太郎(資本金二〇万円)
 上町線 大阪市電に乗り入れ(天王寺西門前〜谷町六丁目間)

4・28
 資本金一〇〇万円となる(増加分金一四六万円)
 4・29
 淡輪遊園地を開設
 8・20
 上町線 大阪市電に乗り入れ延長(天満橋南詰まで)
 9・20
 和歌山電車庫新設
 10・21
 本社屋新築

11・11
 難波〜和歌山市間全線電化完成(蒸気機関車は貨物専用となる)
 電化のため「和歌号」「浪速号」急行列車廃止
 11・11
 難波駅二階に南海食堂開設(明治四五年六月一五日焼失)
 貝塚 深日両変電所新設

12・15
 天王寺公園開設
 10・14
 青森〜函館間航路開設
 7・14
 第二次桂太郎内閣成立
 8・1
 大阪市電南北線(梅田〜恵美須町)開通
 12・5
 鉄道院官制公布
 7・31
 大阪北区で大火 一万四〇〇〇戸焼失
 10・15
 天王寺公園開設
 10・26
 伊藤博文 ハルピンで暗殺

3・10
 箕面有馬電気軌道 梅田〜宝塚 石橋〜箕面間開通
 4・15
 京阪電気鉄道 天満橋〜京都五条間開通
 4・21
 輕便鉄道法公布(八月三日施行)
 6・12
 宇高連絡航路開設
 9・16
 奈良軌道創立(現近畿日本鉄道)
 10・15
 奈良軌道は大阪電気軌道と改称
 3・23
 輕便鉄道補助法公布(十二月一日施行)
 5・10
 大阪府 ドイツから自動車つき消防ポンプ輸入(わが国はじめて)
 8・30
 第二次西園寺公望内閣成立
 12・14
 アムンゼン(ノルウェー)はじめて南極に到達

当社

一般

12・1 阪堺電気軌道(株) 玉出変電所 堺発電所(現変電所) 新設 恵美須町〜大小路間開通
 12・ 難波または天王寺〜浜寺公園間の運賃を区間制とする。

明治45年

大正元年

一九二二

1 上町線の大阪市電乗入れ廃止
 2 阪堺電気軌道(株) 堺市から大浜公園を借入
 13 阪堺電気軌道(株) 恵美須町〜浜寺駅前間全通
 4 阪堺電気軌道(株) 大浜公会堂を開場
 6 加太軽便鉄道(株) 加太〜和歌山口(紀ノ川西岸) 間開通
 6 高野登山鉄道(株) 取締役社長に根津嘉一郎就任
 7 電気供給事業を開始(泉南 泉北両郡一〇か村 二〇二五灯)
 8 阪堺電気軌道(株) 宿院〜大浜海岸間開通
 8 金剛水力電気(株) 事業開始
 9 高野登山鉄道(株) 電車併用運転開始(汐見橋〜長野間)
 10 大阪電灯(株) から供給区域譲受(泉北郡六か村)
 11 大浜汐湯開業
 11 阪南電気軌道(株) 設立(元平野線 資本金六〇万円)
 10 高野登山鉄道(株) 紀見トンネル着工(旧高野鉄道 一部着工中断)
 10 高野登山鉄道(株) 長野〜橋本間延長工事着工
 9 上町線 住吉神社前〜住吉公園間複線開通
 9 阪堺電気軌道(株) は阪南電気軌道(株) を吸収合併
 11 取締役村野山人は辞任
 1 大阪南区大火 五三〇〇戸焼失
 3 藤田傳三郎逝去
 7 通天閣を中心として新世界ルナパーク開業
 3 (通天閣 高さ七五m 日本一の高塔 昭和一八年二月二三日解体 昭和三二年一〇月二八日再建)
 7 明治天皇崩御 嘉仁親王踐祚 大正と改元
 21 第三次桂太郎内閣成立

大正2年

一九二三

1 大浜汐湯開業
 2 阪南電気軌道(株) 設立(元平野線 資本金六〇万円)
 5 高野登山鉄道(株) 紀見トンネル着工(旧高野鉄道 一部着工中断)
 5 高野登山鉄道(株) 長野〜橋本間延長工事着工
 7 上町線 住吉神社前〜住吉公園間複線開通
 7 阪堺電気軌道(株) は阪南電気軌道(株) を吸収合併
 9 取締役村野山人は辞任
 2 第一次山本権兵衛内閣成立
 6 京阪電気鉄道 中書島〜宇治間開通
 6 松本重太郎逝去
 8 東海道本線 複線工事竣工
 8 アメリカ大リーグ初来日(ジャイアンツ ホワイトソックス帯同)

大正3年

一九二四

3 難波に南海食堂開設(昭和四年四月難波駅改築のため廃業)
 3 南海共済会を組織
 4 阪堺電気軌道(株) 今池〜平野間開通
 9 高野登山鉄道(株) 紀見トンネル貫通
 9 加太軽便鉄道(株) 北島(旧和歌山口)〜和歌山口(和歌山市駅北側)間開通
 9 鉄道線制御客車四両新造
 10 高野登山鉄道(株) 長野〜三門市町間開通
 11 高野登山鉄道(株) 紀見トンネル竣工
 4 第二次大隈重信内閣成立
 4 大阪電気軌道 上本町〜奈良間開通
 7 第一次世界大戦ぼつ発
 8 阪神電気鉄道 野田〜天六間開通
 8 日本 ドイツに宣戦布告
 12 東京中央停車場竣工 東京駅と命名(二月二〇日開業)

大正4年

一九二五

3 高野登山鉄道(株) 三門市町〜橋本間開通
 4 資本金一三六〇万円となる(増加分金三六〇万円)
 4 取締役社長大塚惟明は専務取締役に就任
 8 大阪市立天王寺動物園開園(入園料大人五銭 小人三銭)
 1 第一回全国中等学校優勝野球大会が豊中運動場で開催(京都二
 中優勝)

片岡直輝は社長に就任 永田仁助 渡邊千代三郎 垂井清右衛門は取締役
に就任

4・30 高野登山鉄道(株)は大阪高野鉄道(株)と改称

4・30 軌道線と本線の切符の共通取扱開始

5・5 天見変電所新設(大阪高野鉄道)

6・21 南海鉄道(株)は阪堺電気軌道(株)を合併

7・5 社債一五〇万円発行

8・2 社債二〇〇万円発行

9・1 大阪高野鉄道(株) 橋本、紀ノ川口間開通

大正5年 2・15 山東軽便鉄道(株) 大橋、山東間開通

一九二六 4・1 関西水力電気(株)から供給区域譲受(伊都郡の五か町村)

大正6年 3・16 山東軽便鉄道(株) 大橋、中ノ島間開通

一九二七 7・9 監査役川井為己逝去

9・25 高野大師鉄道(株)設立 發起人根津嘉一郎ほか(資本金一五〇万円)

11・20 寺田元吉は監査役に就任

資本金一四四四万円となる(増加分金八四万円)

大正7年 2・16 大阪高野鉄道(株) 金剛水力電気(株)を買収

一九二八 2・28 南海鉄道(株) 和泉水力電気(株)を買収

2・28 大阪高野鉄道(株) 資本金四〇〇万円となる

4・1 資本金二二〇〇万円となる(増加分金七五六万円)

10・1 高師浜支線 羽衣、伽羅橋間開通

大正8年 5・5 春木変電所新設

一九二九 8・8 吉見変電所新設

9・9 電気設備二五サイクルを廃し六〇サイクルに統一

10・25 高師浜支線 伽羅橋、高師浜間開通

10・28 専務取締役大塚惟明は取締役に 佐々木勇太郎は専務取締役に就任

大正9年 3・3 大正八年下期配当率年一割三分

一九三〇 9・9 鉄道線 電動客車一〇両新造

10・27 京阪電気鉄道 五条、三条間開通

11・10 大正天皇即位大礼挙行

12・10 株式暴騰 大戦景気はじまる

10・28 私設鉄道同志会設立

10・9 寺内正毅内閣成立

4・6 アメリカ ドイツに宣戦布告

10・12 株式大暴落

2・4 箕面有馬電気軌道は阪神急行電鉄と改称(現阪急電鉄)

8・29 生駒鋼索鉄道(現近畿日本鉄道) 開通(日本最初のケーブル)

8・29 大阪市で米騒動 府下に波及

9・29 原敬内閣成立

11・11 第一次世界大戦終結

4・10 地方鉄道法公布(八月一五日起施行)

11・1 (私設鉄道法 軽便鉄道法廃止)

堺で第一回学生相撲大会開催

3・15 株式大暴落 経済恐慌発生

5・2 日本最初のメーデー 東京上野公園で開催

5・15 鉄道省開設

6・10 はじめての時の記念日

7・16 阪神急行電鉄 梅田、上筒井間および塚口、伊丹間開通

10・1 第一回国勢調査(大阪市人口一二五万人)

4・14 軌道法公布(大正一三年一月一日施行)

大正10年 2・2 住ノ江電車庫新設

一九三二

当 社

一 般

6・10	九度山町電気供給区域を高野山水電(株)へ譲渡	9・2	阪神急行電鉄 西宮北口〜宝塚間開通
7・7	暴風雨により孝子(紀ノ川)で土砂崩壊(完全復旧八月三一日)	10・14	鉄道開通五〇周年記念式挙行
11・14	紀ノ川変電所新設	11・4	原敬首相暗殺
12・21	上町線 天王寺西門前〜天王寺駅前間を大阪市に譲渡	11・13	高橋是清内閣成立
12・	南海線 電車線直接吊架式をカテナリ式に改造	11・29	わが国最初の潜水艦第四四号進水
12・	南海線 電車線直接吊架式をカテナリ式に改造		
12・	鉄道線 電動客車二二両新造		

大正11年 取締役田中新七逝去 4・4・11 鉄道敷設法公布(五月一日施行)

一九二二 専務取締役佐々木勇太郎は取締役に 取締役大塚惟明は専務取締役に 4・4・18 大阪鉄道(現近畿日本鉄道)道明寺〜布忍間開業

4・27 市来崎佐一郎は取締役に就任 4・22 健康保険法公布(大正一五年七月一日施行)

4・ 最初の電気機関車四両新造 6・12 加藤友三郎内閣成立

6・12 資本金五〇〇万円となる(増加分金二八〇〇万円) 岸和田市制施行

6・12 根津嘉一郎 大塚晃長は取締役に就任

9・6 南海鉄道(株)は大塚高野鉄道(株)および高野大師鉄道(株)を合併

9・30 取締役社長片岡直輝は辞任

12・2 難波(和歌山市)間複線開通

12・5 難波(和歌山市)間急行列車運転(所要時間一時間三五分)

12・ 難波駅に運輸教習所設置

大正12年 専務取締役大塚惟明は社長に就任 大塚善行賞を設置

一九二三 鉄道線トローリポール式をパンタグラフ式に変更認可

7・ 鉄道線電動客車五両新造

10・10 蒸気機関車による営業廃止

12・1 汐見橋〜橋本間を四〇分毎に運転「大運転列車」と呼称

大正13年 山東軽便鉄道(株) 中ノ島〜大橋間営業廃止

一九二四 取締役社長大塚惟明は取締役に就任

3・18 取締役渡邊千代三郎は社長に就任

3・28 岡田意一は専務取締役に就任

5・24 大労働争議起こる

5・ 大和川電車庫新設

6・ 学文路変電所新設

6・ 浜寺公園内に庭球場新設

7・25 難波(和歌山市)間急行四両運転 所要時間一時間三〇分「浪速号」和歌号」ほか四編成

7・26 南海線 自動閉そく信号機取付完了

1・7	清浦奎吾内閣成立
6・11	第一次加藤高明内閣成立
6・	在阪私鉄に労働紛争頻発
7・1	メートル法実施
7・2	大阪乗合自動車開業(青バス)
8・1	阪神電気鉄道 甲子園球場竣工
9・27	京阪電気鉄道は京津電気軌道を合併

7・7 鉄道線電動客車 制御客車各二〇両新造(貫通式)
 業務組織変更(三部 八課制)
 9・7 大正一三年下期 年一割の特別配当
 10・28 資本金七〇〇万円となる(增加分金二〇〇万円)
 11・1 妻信号所、字文路間開通
 11・1 第一回従業員慰安会を開催
 12・25 字文路、九度山間開通
 鉄道線電動客車一五両新造

大正14年 3・15 岸ノ里において本線 高野線の連絡線完成 難波、九度山間直通運転開始
 一九一五 3・26 高野山電気鉄道(株)設立 社長岡田意一(資本金一五〇万円)
 7・30 九度山、高野下間開通

5・5 普通選挙法公布(衆議院議員選挙法改正)
 6・1 大阪放送局開局(JOBK)
 7・17 国鉄 貨車の自動連結器の一斉取替実施
 8・2 第二次加藤高明内閣成立

大正15年 2・24 橋本電車庫新設
 昭和元年 4・24 阪和電気鉄道(株)設立 社長木村清(資本金二〇〇万円)
 一九一六 8・20 取締役市来崎佐一郎逝去
 12・3 岸ノ里駅の高野線(汐見橋線方面)連絡線完成
 12・3 天下茶屋、粉浜間複々線開通 特急運転開始 所要時間難波、和歌山市間一時間一五分
 12・25 健康保険組合を設立

1・30 第一次若槻礼次郎内閣成立
 1・31 水間鉄道 貝塚、水間間全通
 4・9 労働争議調停法公布(七月一日施行)
 12・18 阪神急行電鉄 西宮北口、今津間開通
 12・25 大正天皇崩御 裕仁親王踐祚 昭和と改元

昭和2年 3・9 軌道線電動客車一〇両新造
 一九一七 3・10 取締役永田仁助逝去
 5・14 蒸気機関車使用廃止認可
 7・14 堺火力発電所新設
 8・28 岸ノ里 貝塚 橋本に磁石式電話交換所新設
 後藤佐彦は取締役に就任

2・26 大阪市営バス開業(阿倍野橋、平野間)
 4・20 田中義一内閣成立
 10・1 阪堺電鉄 芦原橋、三宝車庫前開業(通称新阪堺)
 12・30 東京地下鉄 上野、浅草間開通(わが国最初の地下鉄)

昭和3年 1・16 天下茶屋集会所を設置(昭和二〇年三月一三日戦災により焼失)
 一九一八 4・5 直営貨物自動車営業開始
 5・25 社債一〇〇万円発行(昭和八年一月二四日償還)
 7・1 直営バス事業営業開始 牛滝線(和泉自動車買収)
 7・1 槇尾登山自動車買収(バス槇尾線営業開始)
 7・11 犬鳴登山自動車買収(バス犬鳴線営業開始)
 8・1 金熊寺線旅客自動車買収
 9・3 和歌浦急行バス設立(傍系 資本金一八万円)
 11・1 軌道線電動客車一〇両新造

1・12 大相撲のラジオ放送開始
 2・20 第一回普通選挙実施
 3・29 野上、軽便鉄道 野上、生石口間開業
 4・1 阪神電気鉄道 阪神国道電軌を買収
 11・6 鉄道省官制改正公布 陸運の監督権を通信省から鉄道省に移管
 11・10 今上天皇即位大礼挙行
 11・15 奈良電気鉄道(現近畿日本鉄道) 京都、西大寺間開業
 11・28 神戸有馬電気鉄道 湊川、有馬温泉間開業

当社

一般

12・28 取締役大塚惟明逝去

昭和4年
一九二九
難波駅改造のため食堂営業廃止
南海ビル着工

6・4
19・6
阪和電気鉄道(株) 天王寺と和泉府中 鳳と阪和浜寺間開業

7・7
18・19
鉄道線電動客車 制御客車各一〇両新造(半鋼製)

8・8
22
旅客運賃制度改定 特等運賃を廃し並等運賃による単級制とする

9・9
11
平野線 天王寺駅前と平野間電車直通運転を開始

11・11
30
バス葛葉稲荷線営業開始(亀谷自動車買収)

昭和5年
一九三〇
高野線全列車を難波から発着開始
黒山村営バス買収(昭和九年一月一日直営に編入)

4・1
10
監査役宅徳平は辞任

5・5
23
旅客運賃制度改定 メートル制による営業料を定む(難波と和歌山市間一円)

5・5
23
バス新在家線営業開始

6・6
16
バス滝谷線営業開始

6・6
21
阪和電気鉄道(株) 和泉府中と東和歌山間開通(天王寺と東和歌山間全通)

6・6
21
一五往復(運賃九六銭に特定)

8・8
13
高野山電気鉄道(株) 高野下と高野山間全通(鋼索線完成)

8・8
13
バス紀州街道線営業開始

12・12
22
鉄道線電動客車六両 制御客車四両新造

12・12
22
難波駅構内に案内所設置

12・12
22
加太軽便鉄道(株)は加太電気鉄道(株)と改称

昭和6年
一九三一
軌道線電動客車六両新造
バス住吉線営業開始
監査役寺田元吉逝去
山東軽便鉄道(株)は和歌山鉄道(株)と改称
寺田元之助は監査役に就任
高帥浜臨海学舎新設
天王寺支線複線開通
取締役社長渡邊千代三郎は辞任
専務取締役岡田意一は社長に就任
取締役寺田甚與茂逝去

3・1
17
参宮急行電鉄(現近畿日本鉄道) 大阪と宇治山田間開通

4・4
14
自動車交通事業法公布(昭和八年一〇月一日施行)

8・8
25
第二次若槻礼次郎内閣成立

9・9
18
羽田空港開港

11・11
13
清水トンネル開通(上越線全通)

7・7
2
浜口雄幸内閣成立

9・9
15
東京と下関間に「富士」桜 走る(愛称列車のはじめ)

10・10
24
ニューヨーク株式大暴落 世界恐慌はじまる

11・11
18
大阪地下鉄起工(御堂筋と平野町)

11・11
18
全国労働組合同盟結成

11・11
18
東海道線に特急「つばめ」走る(東京と大阪 八時間二〇分)

11・11
18
名古屋市営バス 電気バス営業開始

12・12
18
高島屋 南海ビルの一部で開店

12・19 粉浜～住吉公園間複々線開通

昭和7年

一九三二

2・8 バス滝谷線営業開始
 3・20 バス葛葉線営業開始(葛葉自動車買収)
 3・28 昭和六年下期配当率年九分に減配
 4・28 中山隆吉は専務取締役任 寺田甚吉は取締役任に就任
 4・28 高野線 高野山電気鉄道(株)と直通運転を開始
 5・1 合同電気(株)へ供給区域譲渡(海草郡五か村)
 5・ 合同電気(株)から供給区域譲受(伊都郡二か村)
 7・9 下古沢、細川両変電所新設
 7・15 南海ビル竣工
 7・15 南海ビルの一部を高島屋百貨店へ賃貸
 10・1 寺田賞を設置
 10・13 天皇陛下 陸軍大演習ご統監 難波～堺東間お召列車運転
 11・13 百舌鳥変電所新設
 12・28 鉄道線電動客車、制御客車各一両新造
 12・30 取締役本山彦一逝去

1・28 上海事変ぼつ発
 4・1 京都市でトローリーバス運転開始
 5・26 齊藤実内閣成立
 7・15 高島屋 南海ビル全館開店

昭和8年

一九三三

1・25 バス滝谷線を不動乗合へ譲渡
 2・16 国鉄城東線の電化に伴い天王寺支線列車増発
 2・ 三門市 御幸辻両変電所新設
 6・ 二色浜に海浜村を新設
 8・18 和歌山鉄道(株) 伊太祁曾～貴志間開通
 9・17 監査役宮本吉右衛門逝去
 9・28 昭和八年上期配当率年一割
 10・ 取締役社長岡田意一は取締役に
 11・10 取締役寺田甚吉は社長に就任
 11・11 和歌浦急行バス(株)は南海バス(株)と改称
 11・24 鉄道線制御客車一両新造
 社債一〇〇万円発行(昭和一八年一月二四日償還)

3・3 三陸地方に大地震
 3・27 日本国 国際連盟脱退を通告
 5・20 大阪市営地下鉄 梅田～心斎橋間開通
 6・17 天神橋筋六丁目でゴーストツプ事件発生
 8・15 高野山内でバス走る(高野山駅前～女人堂間 片道一五銭)
 12・23 紀勢西線 天王寺～白浜口間準急「黒潮」運転
 皇太子 明仁親王誕生

昭和9年

一九三四

1・16 定款を変更して会長制とし取締役根津嘉一郎は会長に就任
 2・21 取締役後藤藤彦は辞任
 3・2 楠公バス(株)を買収
 3・31 取締役岡田意一は辞任
 3・ 高野山弘法大師千百年御遠忌大法会奉修 期間中特別大輸送を行う
 9・21 室戸台風のため被害甚大
 11・17 黒潮列車運転開始(難波～白浜口)

3・25 西成線でガソリンカー運転開始
 7・28 岡田啓介内閣成立
 9・21 室戸台風で関西地方大風水害

12・12 堺バス(株)を買収

昭和10年 3・ 難波 浜寺 深日 堺東に共電 自動 磁石式の電話交換所新設
1935 4・13 取締役肥塚源次郎逝去
4・30 南海共済会を解散
5・1 南海親和会を組織
5・1 社債一五〇〇万円発行(昭和二〇年五月一日償還)
5・1 初芝住宅第一回売出し
5・15 バス粉河線営業開始(粉河バス買収)
6・1 バス根来線営業開始(根来バス買収)
8・1 西村駅を初芝駅と改称
8・10 中野変電所新設
10・10 大阪市営地下鉄と難波で連絡
12・14 岸和田南海乗合(株)を買収
12・27 開通五〇周年記念日 住吉大社に銅燈籠奉納 高野山根本大塔に銅燈籠奉納 「南海鉄道開通五〇年」 「南海鉄道発達史」 刊行決定 四国八十八か所霊場出開帳

10・30 大阪市営地下鉄 心齋橋 難波間開通
この年の平均寿命 (男四四・八歳 女四六・五歳)

昭和11年 2・2 難波での貨物取扱廃止(汐見橋で取扱)
1936 4・28 取締役垂井清右衛門は退任 前田辰之助は取締役に就任
5・12 バス路線交換(粉河線を阪和電気鉄道(株)の吉見バスと交換)
6・23 業務組織変更(部制を廃止 五課制)
7・19 鉄道線電動客車一〇両新造 わが国で初めて冷房電車運転
9・25 難波 天下茶屋間高架複々線工事着工

2・1 吉野熊野国立公園指定
3・9 広田弘毅内閣成立
3・18 阪神電気鉄道 三宮 元町間地下線開通
5・1 大阪市立美術館開館

昭和12年 1・1 昭和バス(株)を買収
1937 2・15 鉄道線電動客車 制御客車各一両新造
4・28 片岡安は監査役に就任
4・ 中百舌鳥総合運動場竣工
4・ 今宮変電所新設
6・30 鉄道線電動客車五両新造
9・15 鉄道線制御客車五両新造
11・1 鉄道線に女子乗務員採用
11・1 難波駅進路手柄電空式継電運動装置使用開始
12・1 難波 天下茶屋間 高架複線運転開始
12・10 電気供給規定改正 電灯料値下げ
大阪ゴルフクラブ開場

2・2 林銑十郎内閣成立
2・11 文化勲章令公布施行
3・13 大阪市立電気科学館開館
5・11 御堂筋道路竣工
6・4 第一次近衛文磨内閣成立
7・7 日中戦争ぼつ発

昭和13年
一九三八

1・13 バス高野山大門線営業開始
 2・11 高野線汐見橋～長野間複線開通
 2・26 鉄道線制御客車一両新造
 3・20 取締役大塚晃長は辞任
 3・29 南海球団 日本職業野球連盟に加盟
 4・1 南海乗合自動車(株)設立(資本金五六万五〇〇〇円 楠公バス 堺バス 岸和田南海乗合 昭和バス 各傍系会社統合)
 4・28 山本為三郎 菊地文吾は取締役に就任
 5・1 狭山遊園開園
 6・11 取締役佐々木勇太郎は辞任
 7・9 鉄道線展望車一両新造
 8・3 南海野球(株)設立(資本金一五万円)
 9・2 鉄道線電動客車一両新造
 9・10 難波～天下茶屋間高架複々線工事竣工 運転開始
 10・1 バス事業を南海乗合自動車(株)に譲渡
 10・28 小原英一 吉田義輝は取締役に就任

昭和14年
一九三九

3・31 阪堺線南霞町停留場営業開始
 4・1 日本発送電(株)へ堺発電所およびこれに付帯する送電線路出資引継完了
 5・25 大浜汐場の演劇場焼失
 9・9 南海ビル分館竣工
 9・21 南霞町本屋および地下鉄連絡通路工事竣工
 10・15 南海ニユース館開業
 12・15 天下茶屋電車庫を住ノ江電車庫に合併

1・5 平沼騏一郎内閣成立
 1・17 伊丹飛行場開設
 2・16 政府 鉄製不急品の回収をはじめめる
 4・12 米穀配給統制法公布
 8・30 阿部信行内閣成立
 10・18 電力調整令公布(一〇月二〇日施行)

昭和15年
一九四〇

1・4 取締役会長根津嘉一郎逝去
 2・1 貨物運賃等級および取扱制度改定
 2・29 貴志川水力電気(株)の電気事業譲受認可(通信大臣)
 3・2 鉄道線制御客車五両新造
 3・3 上町線帝塚山四丁目停留場営業開始
 3・3 大浜汐湯の演劇場再開
 4・1 通行税変更のため難波～和歌山市間九八銭となる
 4・1 大阪市電と連絡運輸(一〇銭連絡)開始(昭和一八年六月一五日廃止)
 4・6 淡輪駅車扱貨物の取扱廃止
 4・25 定款一部変更(会社の目的中付帯事業として船舶による一般運輸を加えた)

1・16 米内光政内閣成立
 2・1 陸運 海運統制令公布
 4・24 米 ミソ 醤油 木炭 砂糖 マッチ等一〇品目に切符制採用
 7・22 第二次近衛文磨内閣成立
 8・8 紀勢西線 和歌山市～紀伊木本間全通
 9・27 日独伊三国同盟成立

7・1 高野索道(株)を買収(資本金二〇万円)
 8・20 臨時株主総会開催 阪和電気鉄道(株)との合併契約承認
 8・30 鉄道線制御客車五両新造
 9・1 小津川駅新駅舎使用開始
 10・28 平松憲夫 竹中源助 中橋武一 二階賢 橋本澄三は取締役任
 11・8 種 上山勘太郎は監査役に就任
 11・25 鉄道線制御客車五両新造
 12・1 専務取締役中山隆吉 取締役平松憲夫は副社長に 取締役小原英一は
 専務取締役に 監査役前田穰は常任監査役に就任
 阪和電気鉄道(株)を吸収合併 南海山手線と呼称 資本金八六〇〇万
 円となる(増加分金一六〇〇万円)

昭和16年
一九四一

3・3 産業報国会結成(終戦と同時に解消)
 3・12 鉄道線制御客車五両新造
 4・1 南海鉄道青年学校設立(終戦とともに解消)
 5・10 鉄道線制御客車五両新造
 6・10 南海線および南海山手線列車発着時刻改正
 8・1 葛葉駅を高石町駅と改称
 8・5 大津駅新駅舎使用開始
 9・30 中百舌島陸上競技場新築
 10・25 昭和一六年上期配当率年九分五厘
 10・25 加太電気鉄道(株)との合併契約承認可決
 10・25 徳川頼貞は取締役に就任
 11・15 社債一五〇〇万円発行(昭和一九年九月一日償還)

3・15 大阪電気鉄道 参宮急行電鉄を合併 関西急行鉄道と改称
 4・1 尋常小学校を国民学校と改称
 4・13 日ソ中立条約調印
 7・18 第三次近衛文磨内閣成立
 10・18 東条英機内閣成立
 12・8 太平洋戦争爆发
 12・8 日本軍 真珠湾奇襲 対米英宣戦布告
 各電鉄で女子車掌活躍

昭和17年
一九四二

1・15 臨時株主総会開催
 1・15 関西配電(株)設立に関し配電統制令第六條第一項所定事項承認可決
 1・17 鉄道線制御客車五両新造
 2・1 加太電気鉄道(株)を吸収合併 加太線と呼称 資本金八六五〇万円と
 なる(増加分金五〇万円)
 2・11 南海土木建築(株)設立(資本金一五万円)
 2・15 平野線西平野停留場新設営業開始
 3・31 取締役橋本澄三は辞任
 4・1 旅客運賃改定(難波と和歌山市間一円三〇銭)
 4・1 加太線貨物営業料程改正
 4・1 旅客および荷物運送規則 同取扱細則 貨物運送規則制定

4・1 泉大津市制施行
 4・18 米国空母から日本本土初空襲
 (東京 名古屋 四日市 神戸)
 5・10 大阪市営地下鉄 大國町と花園町間開通
 6・5 ミッドウェー海戦で空母四隻失う
 10・11 時刻の呼称方に二四時間制を採用
 11・15 関門鉄道トンネル単線開通

配電統制令により電気供給事業を関西配電(株)に引継完了
 南海山手線制御客車一両新造
 南海山手線制御客車四両新造
 大津駅を泉大津駅と改称
 淡輪温泉営業開始
 社債五〇〇万円発行(昭和一九年九月一日償還)
 南海山手線制御客車四両新造
 鉄道線電動客車二両新造
 午前午後と呼称を廃止し二四時間制採用
 定款一部変更(公示方法の変更)
 南海山手線制御客車五両新造
 南海山手線制御客車五両新造
 監査役上山勘太郎昭南島で遭難

昭和18年
一九四三

12.30 南海山手線制御客車六両新造
 阿曾沼均 味村亨は取締役に 春日弘は監査役に就任
 取締役に二階賢は常務取締役に就任
 六十谷、東松江間地方鉄道敷設認可(鉄道大臣)
 鉄道線電動客車二両新造
 和歌山建設事務所新築
 鉄道財団(難波)和歌山市 和歌山市(省社分界点 羽衣、高師浜間)を担保とする社債七〇〇万円の鉄道抵当権設定認可(鉄道大臣)
 社債一〇〇〇万円発行(昭和二八年一月二四日償還)
 南海親和会解散(関西急行鉄道(株)合併のため)
 玉川立里林道の運営承継
 取締役吉田義輝逝去

昭和19年
一九四四

1.31 臨時株主総会開催
 事業の一部(南海山手線)を運輸通信省へ譲渡可決
 大浜汐湯閉場
 臨時株主総会開催
 関西急行鉄道(株)と合併承認可決
 取締役副社長中山隆吉は辞任
 大阪ゴルフクラブ閉鎖
 旅客運賃改定(難波、和歌山市間一円八〇銭)
 南海実践女学校開校(終戦とともに閉鎖)
 南海山手線を運輸通信省に譲渡

1.16 大阪新世界で大火 通天閣楼脚など焼ける
 2.1 関西急行鉄道 大阪鉄道を合併
 5.1 貝塚市制施行
 10.1 京阪電気鉄道と阪神急行電鉄は合併 京阪神急行電鉄となる
 11.1 運輸通信省設置(鉄道省廃止)
 12. 学徒出陣はじまる

3.6 新聞夕刊廃止
 4.1 国鉄 一等車 寝台車 食堂車全廃
 7.22 大阪市 阪堺電鉄を買収
 10.11 小磯昭内閣成立
 国鉄 特急列車全廃

昭和20年 一九四五	1・20	濱寺公園駅構内で列車衝突事故	1・3	大阪市 第一回空襲をうける
	2・10	軌道線 大浜海岸〜大浜北町間営業廃止	4・7	鈴木貫太郎内閣成立
	2・20	軌道線に女子乗務員採用	5・19	運輸通信省を運輸省に改組
	3・13	空襲による被害あり 以後終戦まで被害続出(難波本社 難波駅 天下茶屋駅 天下茶屋工場 住ノ江車庫 今宮変電所 玉出変電所 大和川工場ほか)	6・1	大阪市大空襲 B―二九 四〇〇機来襲
	3・29	戦災(天下茶屋工場 汐見橋駅)	8・9	長崎に原爆投下
	3・17	難波営業局長味村亨は難波営業局業務担当者として登記(近畿日本鉄道が運輸通信 内務両大臣より軍需充足会社指定されたため)昭和二〇年八月一五日終戦により失効	8・14	日本ボツダム宣言受諾を決定
	4・1	旅客運賃改定(難波〜和歌山市間二円二〇銭)	8・15	終戦の詔勅御放送
	6・1	戦災(木津川〜津守間 今宮戎〜住ノ江間電車線路 天下茶屋工場)	8・17	東久邇宮稔彦内閣成立
	6・11	深日駅貨物の取扱休止	10・22	幣原喜重郎内閣成立
	6・11	多奈川駅貨物営業開始		労働組合法公布(昭和二十二年三月一日施行)
	6・15	戦災(天下茶屋駅 天下茶屋工場 住ノ江車庫 堺東駅)		
	6・26	戦災(大門通駅 曳船駅)		
	7・9	戦災(堺変電所 堺駅 竜神駅 堺東駅 堺東車庫 住ノ江車庫 和歌山市駅 紀ノ川変電所 紀ノ川駅 東松江駅)		
	7・24	戦災(橋本駅)		
		この間戦災により車両一六六両(貨車を含む)焼失		

昭和21年 一九四六	3・1	旅客運賃改定(難波〜和歌山市間五円)	1・4	天皇の人間宣言
	3・1	小荷物運賃改定	1・4	GHQ公職追放指令

昭和22年
一九四七

3・1	貨物運賃改定(二〇割増)	4・10	戦後初の総選挙実施 婦人代議士三九人誕生
3・6	監査役岸本五兵衛逝去	5・1	メーデー復活
4・26	田中太一は監査役に就任	5・22	第一次吉田茂内閣成立
7・1	高野線の難波駅乗入れ再開	11・3	日本国憲法公布(昭和二年五月三日施行)
7・1	南海線の急行列車運転再開	11・18	関西経営者協会設立
7・9	淡輪駅車扱貨物の取扱再開	12・21	北海道大地震発生 近畿 四国に被害
9・18	取締役大蔵公望は辞任		
11・5	プロ野球「近畿グレートリング」ペナントレース初優勝		
12・12	取締役会長寺田甚吉は辞任		

監査役成瀬達は辞任

高野山電気鉄道(株)は近畿日本鉄道(株)との間に近鉄の経営する旧南海鉄道の事業一切を譲受ける契約を締結(三月一日 臨時株主総会において可決)

旅客運賃改定(難波と和歌山市間六円五〇銭 爾後 運賃改定の詳細については資料編に別掲)

鋼索線七〇銭

阪堺線五区 上町線二区 平野線三区 一区につき三〇銭

手荷物運賃改定

貨物運賃改定(二〇割増)

高野山電気鉄道(株) 臨時株主総会開催

高野山電気鉄道(株)は南海電気鉄道(株)と改称 資本金九〇〇万円となる(増加分金八七八〇万円) 五月二〇日払込完了 六月一日登記完了

3・1	取締役小原英一は社長に 吉村茂 稲次國利 吉田卯之吉 阿曾沼均 楠美喬は取締役に 中村利孝は監査役に就任	11・28	私鉄経営者連盟発足
3・15	取締役影山光一 同芝谷常吉 監査役藤井正は辞任	10・1	関西鉄道協会創立
4・28	昭和二年下期配当無配	9・1	労働省発足
5・19	鉄道線電動客車四両新造	5・24	片山哲内閣成立
5・20	社長小原英一は取締役に	4・14	独占禁止法公布(七月二〇日施行)
5・31	取締役吉村茂は社長に就任	4・7	労働基準法公布(九月一日施行)
6・1	取締役小原英一は辞任	4・1	六・三制教育制度実施 男女共学となる
6・1	近畿日本鉄道から旧南海鉄道に属した鉄道軌道事業ならびに付帯事業一切の譲受完了 新たに南海電気鉄道(株)として発足(五月一日許可(運輸大臣 内務大臣))	1・31	GHQ二・一ゼネスト中止指令
6・1	東京事務所設置	1・10	公職追放令改正 言論界 地方公職に及ぶ
6・1	南海電気鉄道健康保険組合設立	1・4	日本私鉄労働組合総連合会発足
6・7	監査役中村利孝 壺田修は取締役に 浅田敏章 岡田意一 川勝傳は		

当社

一般

監査役に就任

6 戦災復旧工事（和歌山市駅構内検車区事務所）竣工

6 下古沢 上古沢 紀伊細川各駅の車扱貨物の取扱廃止

6 紀伊神谷 極楽橋両駅の到着車扱貨物の取扱廃止

6 南海電気鉄道労働組合結成

7 南海電鉄親和会発足

7 浜寺公園が進駐軍に接収 海水浴場の位置変更

7 旅客運賃改定（難波）和歌山市間（二五円）

鋼索線三円

7 阪堺線五区 上町線二区 平野線三区 一区につき二円二八銭

手小荷物運賃改定

貨物運賃改定（二五割増）

7 戦災復旧工事（難波駅構内技術関係総合事務所）竣工

8 （株）南海交通社設立（資本金一五万円）

8 臨時株主総会開催

8 資本金一億八〇〇万円となる（増加分金九〇〇万円） 一一月二〇日払込完了 一一月一五日登記完了

8 戦災復旧工事（難波駅一階 二階コンコース）竣工

9 鉄道線電動客車六両新造

9 社歌制定（社内懸賞募集）

9 戦災復旧工事（霞町従業員詰所その他）竣工

9 南海線搬送式電話装置新設

9 戦災復旧工事（紀ノ川変電所）竣工

10 南海電気鉄道労働組合と労働協約締結

10 第一回定時株主総会開催（二二年以上期配当無配）

昭和23年
一九四八

2 鉄道線電動客車四両新造

2 臨時株主総会開催

2 資本金四億円となる（増加分金一億二〇〇万円） 四月三〇日払込完了 五月二五日登記完了

2 一〇〇株券を新たに発行

3 高野線搬送式電話装置新設

4 佐野駅を泉佐野駅と改称

4 宇都宮綱郎は取締役就任

5 鉄道線制御客車五両新造

5 旅客運賃改定（難波）和歌山市間（四四円）

3 芦田均内閣成立

4 泉佐野市制施行

4 新制高等学校発足

5 夏期時間制度実施

6 福井地方に大地震

7 国民の祝日制定

8 私鉄経営者連盟は解散 私鉄経営者協会発足

10 第二次吉田茂内閣成立

12 日本国有鉄道法公布（昭和二四年四月一日施行）

昭和24年	1	10	暫定値上換算貸率 昭和二二年七月七日の発売額の一・七五倍
一九四九	3	3	中百舌鳥運動場接収解除により再開
	3	10	戦災復旧工事(難波駅運動装置)竣工
	3	10	南海乗合自動車(株)から自動車事業譲受認可(運輸大臣)
	3	10	岩湧山山の家再開 友ヶ島事業場開設
	3	10	大浜パーク開園
	3	10	手小荷物運賃改定
	3	10	貨物運賃改定(二五割増)
	3	10	車扱貨物運賃を併算制に改正
	3	10	旅客運賃改定(難波と和歌山市間八〇円を七〇円に特定)
	3	10	鋼索線一〇円
	3	10	財団法人南海学園設立(学校教育法に基づく)
	3	10	臨時株主総会開催
	3	10	資本金八億円となる(増加分金四億円)一〇月一五日払込完了
	3	10	月五日登記完了
	3	10	鉄道線電動客車六両新造
	3	10	貨物営業料率制定(営業料率の一割増)
	3	10	運輸教習所 高石町に移転
	3	10	南海高等学校開校
	3	10	天下茶屋工機部事務所 電機工場新築
	3	10	東松江駅新駅舎使用開始
	3	10	住ノ江鍛工場新設
	3	10	戦災復旧工事(天下茶屋駅舎)竣工
	3	10	南海乗合自動車(株)から自動車事業譲受認可(公正取引委員会)
	3	10	定款一部変更
	3	10	(会社の目的中「自動車交通事業法」を「道路運送法」に改正)
	3	10	定時株主総会招集月を五月および十一月に改正
	3	10	深日港と淡路・四国連絡航路開設
	3	10	天下茶屋駅新駅舎使用開始
	3	10	堺東駅舎使用開始
	3	10	南海乗合自動車(株)を合併
	3	10	戦災復旧工事(天下茶屋工機部定期修理工場)竣工
	3	10	難波列車区事務所新設
	3	10	軌道線トロリーポールをビュージェルに変更
	3	10	軌道線 宿院と大浜北町間営業休止
	3	10	戦災復旧工事(汐見橋駅貨物上屋その他)竣工
	3	10	淡輪つっぴ人形展開催
	6	1	奈良 法隆寺金堂焼失
	6	1	第三次吉田茂内閣成立
	6	1	労働組合法 労働関係調整法改正公布
	6	1	国鉄は運輸省から独立

当社

一般

4	4	狭山遊園事業場再開	下山事件発生
4	8	鉄道線列車発着時刻改正(特急再開)	古橋広之進 一五〇〇米自由形に一八分一九秒の世界新記録
5	5	旅客運賃改定(難波と和歌山市間八〇円 七〇円の特定廃止)	松川事件発生
5	11	大阪 東京 名古屋各証券取引所へ有価証券(株式)上場登録	「人は右 車は左」対面交通実施
5	30	既設鉄道財団を担保とする借入金五〇〇〇万円の鉄道抵当権設定認可(運輸大臣)	湯川秀樹 ノーベル物理学賞受賞決定
5	31	既設鉄道財団を担保とする第一回物上担保付社債発行総額金三億五〇〇〇万円の鉄道抵当権設定認可(運輸大臣)	プロ野球二リーグ制となる
5	31	北島と外浜間鉄道起業廃止許可(運輸大臣)	京阪神急行電鉄は 京阪線 京津線 石山坂本線 宇治線 交野線を分離
5	31	紀ノ川と六十谷間鉄道起業廃止許可(運輸大臣)	京阪電気鉄道再発足
6	18	神戸 京都各証券取引所へ有価証券(株式)上場登録	お年玉付年賀ハガキ発売
6	20	天王寺支線 曳船 大門通両駅廃止	
7	5	第一回物上担保付社債総額金三億五〇〇〇万円の内第一回い号物上担保付社債金五〇〇〇万円発行(昭和二七年七月五日償還)	
7	21	春木変電所一〇〇〇キロワット水銀整流器新設	
7	30	大浜水族館開設(堺市から受託経営)	
8	1	中百舌島運動場前駅新設	
8	1	取締役稲次國利 同吉田卯之吉 同壺田修は常務取締役就任	
8	1	監査役浅田敏章は常任監査役に就任	
8	12	戦災車両復旧(鉄道線五六両 軌道線四両)	
8	25	南海印刷(株)設立(資本金四〇〇万円)	
9	15	南海電気鉄道任ノ江診療所を南海電気鉄道病院と改称	
9	29	南海砂利(株)設立(資本金二八〇万円)	
10	10	松江線電化完成	
10	31	大阪スタジアム(株)設立(資本金三〇〇〇万円)	
11	25	水害復旧工事(御幸辻と橋本間築堤崩壊)竣工	
12	8	一般貸切旅客自動車運送事業免許確認(運輸大臣)	
12	15	堺東検車区事務所新築	
1	1	小荷物運賃改定	満年令制実施
1	1	貨物運賃改定(八割増)	千円札発行
1	1	貸物営業料程廃止(ただし鋼索線を除く)	富田林市制施行
1	16	長野遊園地の経営を大阪府立公園として大阪府へ譲渡	大阪市営観光バス再開
3	3	淡輪遊園会館新築	東京と大阪間に特急「はと」運転開始
3	29	取締役中村利孝 同楠美喬は常務取締役に就任	朝鮮動乱ばっ発
3	29	一般乗合旅客自動車八両新造	京都 金閣寺焼失

昭和25年
一九五〇

	4・1	車扱貨物運賃を通算制に改定		7・11	日本労働組合総評議会（総評）結成
	4・1	河内半田駅を狭山遊園前駅と改称		9・3	ジェーン台風関西を襲う 大災害発生
	4・27	鉄道線制御客車五両新造		11・24	電気事業再編成令 公益事業令公布
昭和26年	5	旅客運賃改定（難波と和歌山市間九〇円）			
一九五二	5・23	鋼索線 一五円			
	5	阪堺線五区 上町線二区 平野線三区 一区につき四四四〇銭			
	6・1	常任監査役浅田敏章は取締役に 取締役宇都宮綱郎は常任監査役に就任			
	6・1	手回り品料金制定			
	7・15	松江線旅客営業開始 梶取信号所新設			
	7・20	西ノ庄変電所ならびに送電線新設			
	8・15	旅客運賃調整（鉄道線区間復活）			
	8・15	南海線（難波と羽衣間）五区 高野線（汐見橋と三国ヶ丘間）五区			
	9・3	阪堺線五区 上町線二区 平野線三区 一区につき五円			
	9・10	全線定期（地帯定期）旅客運賃制定			
	9・21	ジェーン台風による被害あり			
	9・21	大阪球場竣工			
	9・27	社長吉村茂逝去			
	9・27	常務取締役壺田修は専務取締役に就任			
	9・27	大阪南大斎場において故吉村茂社長の社葬執行			
	9・27	一般貸切旅客自動車二両新造			
	9・27	一般乗合旅客自動車二両新造			
	9・27	一般乗合旅客自動車三両新造			
	10・6	南海航空観光（株）設立（資本金八〇〇万円 昭和二六年六月二八日			
	10・17	南海航空（株）と改称			
	10・17	大阪市との一般乗合旅客自動車運送事業運輸協定実施（方乗入れ 住			
	11・16	ノ江と難波間）			
	11・16	初めて自動踏切遮断機設置（高石町一四号踏切）			
	11・20	堺変電所移転 水銀整流器二〇〇〇キロワット 二台新設			
	11・28	小原英一は社長に就任			
	12・4	大阪市との一般乗合旅客自動車運送事業の運輸協定変更実施（住ノ江			
	12・4	と西住ノ江間大阪市乗入れ）			
	2	第一回物上担保付社債総額金三億五〇〇〇万円の内第一回ろ号物上担	3・31	地方鉄道規則制定	
	3	保付社債金一億四千万円（昭和三一年二月二〇日償還）	4・2	五〇〇円札発行	
	3	旅客運賃改定 鋼索線 二五円	4・24	桜木町で国鉄電車火災	
	3	第一回物上担保付社債総額金三億五〇〇〇万円の内第一回は号物上担	5・17	貞明皇后崩御	
	3	保付社債金一億四千万円（昭和三一年三月二〇日償還）	6・1	大阪市 わが国初のワンマンバス運転	
	3	南海観光汽船（株）発足（資本金二〇〇万円 昭和三二年一月二六日	6・20	第一次公職追放解除発表	
	3	南海汽船（株）と改称）	9・1	民間ラジオ放送再開（大阪 新日本放送）	

当 社

一 般

	3・3	南海ビル高架下大改造		9・8	対日平和条約調印
	3・3	一般乗合旅客自動車五両新造		9・8	日米安全保障条約調印
	3・3	一般貸切旅客自動車二両新造		10・25	日本国内の民間航空再開
	4・4	貨物運送規則同補則および荷物事故処理規程制定		11・11	朝日放送ラジオ放送開始
	4・4	紀勢西線へ乗入れ再開(難波ノ新宮間)			
	5・5	鉄道線列車発着時刻改正(全面的ダイヤ改正 スピードアップ)			
	5・24	南海電気鉄道(株)として初配当 昭和二五下期配当率八分			
	6・6	第一回物上担保付社債総額金三億五〇〇〇万円の内第一回到に号物上担保付社債金一億円発行(昭和三二年六月二五日償還)			
	7・7	特急こうや号運転開始			
	7・7	大阪球場に夜間照明設備完成(関西初)			
	9・9	バス三宝線営業開始			
	9・9	一般乗合旅客自動車八両新造			
	9・9	一般貸切旅客自動車二両新造			
	10・10	証券取引法の規定により公認会計士との間に監査契約を締結			
	10・1	資産再評価法による再評価を次のとおり実施			
	10・1	再評価合計額金二五億九八二六万四〇九円一九銭			
		(再評価差額金一一億五七五七六一三三三三円)			
	10・15	乗合バス運賃改定(大阪府下貸率一軒につき三円 和歌山県下貸率一軒につき三円三〇銭 山間三割増 雪国一割増)			
	11・1	旅客運賃改定(難波ノ和歌山市間二〇〇円を一一〇円に特定)			
		南海本線(難波ノ羽倉崎) 七区 高野線(汐見橋ノ長野) 六区			
		阪堺線四区 上町線二区 平野線二区 一区につき一〇円			
		手小荷物運賃改定			
		貨物運賃改定(二割六分ノ三割増)			
	11・1	高野線(長野ノ橋本間) 単線自動信号装置完成			
	11・28	改正商法施行に伴い定款を全面的に改正			
	12・17	既設鉄道財団を担保とする借入金五〇〇〇〇万円の鉄道抵当権設定認可(運輸大臣)			
	12・22	鳥取ノ荘変電所新設			
昭和27年 一九五二	1・22	宿院駅舎使用開始	4・9	日航旅客機「もくせい号」三原山に墜落	
	2・12	旅客運賃改定 鋼索線三〇円	4・17	鳥取市で大火 五〇〇〇戸焼失	
	3・	一般乗合旅客自動車四両新造	5・1	メーデー流血事件	
	4・1	鉄道線列車発着時刻改正(難波ノ和歌山市間 特急六〇分 急行七〇分 高野線特急新設)	7・1	住民登録実施	
	4・30	大浜水族館を堺市に返還	7・8	羽田空港 米軍から返還 東京国際空港として業務開始	
			7・8	東京国際空港に初めてジェット旅客機着陸	

5・1 旅客および荷物運送規則ならびに同取扱細則制定

5・15 大阪競艇施設(株)設立(資本金三〇〇〇万円)

5・15 昭和二十六年下期配当率年一割

5・15 監査役岡田意一 同川勝傳は取締役に 寺田元之助 小林尚一 古家徹之助 平井俊吉は監査役に就任

6・1 業務組織変更(経営企画室設置その他)

6・1 和歌山事務所新設

6・25 バス国道線延長(多奈川と和歌山市間) 営業開始

6・28 紀勢西線に南海新造客車直通運転開始(夜行および「くろしお号」)

7・1 狭山遊園事業場営業休止(大阪競艇施設(株)に貸与のため)

7・10 豪雨による被害あり

7・19 こうや号座席指定料金制定(七月七日経済安定本部総務長官認可)

8・1 バス高野山線延長(女人堂と上垣内間) 営業開始

8・20 バス片蔵線延長(片蔵と鉢ヶ峯 片蔵と妙見下間) 三宝線延長(南海通りと松尾間) 営業開始

9・1 中モズゴルフ練習場営業開始

9・25 旅客運賃改定(対キロ制の一部を区間制に変更)

9・25 南海本線(難波と和歌山市) 一、二区 加太線二区 高野線(汐見橋と長野間) 六区 阪堺線四区 上町線二区 平野線二区 一区につき一〇円

9・25 一般乗合旅客自動車六両新造

9・25 一般貸切旅客自動車五両新造

10・28 バス出島線営業開始

10・28 バス事業営業廃止(福町支線外五路線)

12・10 一五トン積有蓋貨車の特殊取扱制度の制定(一車二口制度)

昭和28年
一九五三

1・10 水害復旧工事(高野下と下古沢間) 竣工

1・15 旅客運賃改定(難波と和歌山市間一四〇円を一三〇円に特定)

1・31 南海本線一四区 加太線三区 高野線(汐見橋と長野間) 七区 阪堺線四区 上町線二区 平野線二区 一区につき一〇円 鋼索線 三〇円

2・1 和歌山運送(株)発足(資本金三〇〇〇万円)

2・1 普通定期旅客運賃制定

2・1 一五トン有蓋貨車に積載する車扱貨物の減トン取扱制度の制定

2・1 トン扱貨物制度制定ならびに貨物等級表改正

3・1 業務組織変更(弘報課新設)

3・1 バス東山線営業開始

3・20 旅客運賃改定 鋼索線四〇円

(BOAC コメット号)

7・21 破壊活動防止法公布

9・20 関西線湊町駅で女子赤帽が業務開始

10・5 大阪市営地下鉄 昭和町と西田辺間開通

10・30 第四次吉田茂内閣成立

12・24 大阪府立体育会館開設

12・24 ナンバスケットリンク開場

2・1 NHKテレビ本放送開始(受信料月二〇〇円)

2・15 第五次吉田茂内閣成立

2・21 六甲ケーブル二両運転開始(世界はじめて)

2・27 朝鮮休戦協定調印

2・27 大阪東区内本町にバスセンター開業

2・27 地方鉄道軌道整備法公布

2・28 最初の民間テレビ放送開始(日本テレビ)

2・28 大阪市内にトロリーバス走る(大阪駅と加島町間)

2・25 奄美大島 日本に返還

当社

一般

- 3・3 一般乗合旅客自動車二両新造
- 3・3 一般貸切旅客自動車四両新造
- 4・1 ことや号座席指定料金改定
- 4・1 バス泉大津線延長（久井ノ若樫間）営業開始
- 5・4 既設鉄道財団を担保とする第二回物上担保付社債総額金二億円の鉄道
抵当権設定認可（運輸大臣）
- 5・5 バス金田線および高野山線延長（上垣内ノ北股間）営業開始
- 5・26 第二回物上担保付社債総額金二億円の内第一回発行分として第二回
号物上担保付社債一億円発行（償還期限昭和三十三年五月二十六日）
- 5・ 南海電鉄物故重役社員供養塔竣工（高野山公園墓地内）
- 6・4 バス運賃改定 布忍線（堺東駅前ノ船堂間）一〇円
- 6・19 鋼索線客車二両新造（六月二三日から使用開始）
- 6・26 既設鉄道財団を担保とする借入金一億四五〇〇万円の鉄道抵当権設定
認可（運輸大臣）
- 7・2 旅客交通量調査実施
- 7・3 浜寺公園海岸接収解除 海水浴場をもとの位置に復帰
- 7・18 豪雨による被害あり
- 7・29 乗合バス運賃改定 堺市内南循環線（出島線 三国ヶ丘線連絡）営業
開始
- 7・29 乗合バスワンマンカー運転開始
- 8・1 バス事業運輸協定実施（対大阪市）
- 8・15 バス大阪市内乗入れ（住ノ江ノ内本町二丁目間）営業開始
- 9・15 和歌山市ノ北島間運輸営業休止許可（運輸大臣）
- 9・25 台風一三号による被害あり
- 9・ 一般乗合旅客自動車三〇両新造
- 9・ 一般貸切旅客自動車五両新造
- 10・19 大阪ゴルフクラブ再開
- 10・24 第二回物上担保付社債総額金二億円のうち第二回発行分として第二回
号物上担保付社債金一億円発行（償還期限昭和三十三年一〇月二四日）
- 11・11 社是宣明
- 11・14 定款一部変更（役員の数員数変更）
- 11・14 監査役寺田元之助 鈴木剛 藤谷昂二 市川壽雄は取締役に就任
- 12・20 取締役阿曾沼均 同浅田敏章 監査役平井俊吉は退任
- 12・20 水害復旧工事（九度山ノ高野下間）竣工

昭和29年

1・1

業務組織変更（自動車局新設）

1・21

原子力潜水艦「ノーチラス号」進水（世界はじめて）

一九五四

10	10	10	10	10	10	9	9	9	8	8	8	8	8	7	7	6	6	5	5	4	4	4	3	3	3	2	2	1				
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・			
15	5	1	1	1	1	1	21	21	21	16	16	15	1	1	31	5	10	7	14	12	13	11	10	・	17	14	1	27				
旅客運賃改定	高野線(河内長野〜高野下間) 一軒につき三円一五銭	既設鉄道財団を担保とする第三回物上担保付社債総額金六億円 借入金一億二五〇〇万円 同一億円および同七〇〇〇万円のそれぞれについて鉄道抵当権設定認可(運輸大臣)	浅香山 堺東両駅の急行小口貨物扱の到着取扱廃止	加太線各駅の貨物営業廃止(ただし住友金属専用線発着を除く)	南海線列車発着時刻改正(南海本線新造車により特急増発)	三〇円)	準急行列車「くろしお号」に連絡準急行料金制定(難波〜和歌山市間)	一般貸切旅客自動車四両新造	一般貸切旅客自動車一七両新造	鉄道線電動客車(カルダン駆動方式) 八両新造	バス踞尾線営業開始	バス金田線終点位置変更	自動車壱神営業所新設	自動車堺営業所を堺東営業所と改称	紀ノ川口駅急行小口扱 小口扱貨物取扱廃止	紀ノ川口駅急行小口扱 小口扱貨物取扱廃止	水害復旧工事(上古沢〜紀伊細川間) 竣工	自動車竜神営業所新設	自動車堺営業所を堺東営業所と改称	バス金田線終点位置変更	バス踞尾線営業開始	鉄道線電動客車(カルダン駆動方式) 八両新造	一般貸切旅客自動車四両新造	一般貸切旅客自動車一七両新造	準急行列車「くろしお号」に連絡準急行料金制定(難波〜和歌山市間)	三〇円)	南海線列車発着時刻改正(南海本線新造車により特急増発)	加太線各駅の貨物営業廃止(ただし住友金属専用線発着を除く)	浅香山 堺東両駅の急行小口貨物扱の到着取扱廃止	既設鉄道財団を担保とする第三回物上担保付社債総額金六億円 借入金一億二五〇〇万円 同一億円および同七〇〇〇万円のそれぞれについて鉄道抵当権設定認可(運輸大臣)	旅客運賃改定	高野線(河内長野〜高野下間) 一軒につき三円一五銭

3	4	7	9	9	12
・	・	・	・	・	・
1	1	1	3	3	10
1	1	1	26	26	10

米国 ビキニ水域で水爆実験 第五福竜丸死の灰をかぶる
 河内長野市制施行
 防衛庁 自衛隊発足
 京阪電気鉄道 テレビ付特急運転
 青函連絡船「洞爺丸」遭難
 第一次鳩山一郎内閣成立
 このころから電気洗濯機が急速に広まる

高野線(高野下極楽橋間)一料につき五円
 バス泉佐野線営業開始
 鉄道線 軌道線女子乗務員廃止
 取締役藤谷昂二 同市川壽雄は常務取締役に就任
 第三回物上担保付社債総額金六億円の内第一回発行分として第三回い
 号物上担保付社債金一億円発行(償還期限昭和三四年一月二五日)
 バス事業経営免許条件解除(高野山線女人堂桜峠間無停車・運輸大
 臣)
 北島 島橋 両駅の駅員を廃止 北島 島橋 芦原町 津守 西天下
 茶屋 百舌鳥八幡各駅の手小荷物取扱廃止
 乗合バス運賃設定 田園線(堺東駅前〜中新田間)二〇円
 白浜急行バス(株)設立(資本金三〇〇万円)
 移動変電所新造(一五〇〇キロワット水銀整流器)

昭和30年
一九五五

乗合バス運賃割引実施(高野山駅前〜女人堂間周遊)
 和歌山市〜北島間鉄道営業廃止
 線路名(加太線および松江線)改称
 加太支線(紀ノ川〜加太間) 北島支線(東松江〜北島間)
 ストロージャー自動交換機使用開始(貝塚交換)
 西ノ庄変電所七五〇キロワット水銀整流器新設
 和歌山市駅前駅舎使用開始(四月七日落成式)
 岸和田市内バス運営協議会発足
 バス河内長野線および大門線路線延長 営業開始
 バス葛城線延長(河内長野〜内畑間) および福田線営業開始
 バス牛滝線一部路線変更
 七道〜竜神間一部路線変更工事竣工
 堺駅新駅舎使用開始(竜神駅と堺駅を統合して堺駅と改称)
 東松江 西ノ庄 磯ノ浦各駅の手小荷物取扱廃止
 風水害復旧工事(南海本線および高野線の電線路)竣工
 こうや号座席指定料金変更
 浅香山 堺東両駅急行小口扱 小口扱 トン扱貨物取扱廃止
 バス三宝線の一部(大小路〜材木町間)営業開始
 高野線列車発着時刻改正
 軌道線電車発着時刻改正(天王寺駅前〜浜寺駅間直通運転開始)
 堺東駅前広場(都市計画事業)自動車乗降場新設
 既設鉄道財団を担保とする借入金二億五〇〇万円(一億円 一億円)

橋本市制施行
 第二次鳩山一郎内閣成立
 堺臨海工業地帯造成事業着工
 国産ロケット第一号発射実験成功
 宇高連絡船「紫雲丸」「宇高丸」衝突
 日本住宅公団法公布
 トランジスタラジオ発売される
 第三次鳩山一郎内閣成立

および五〇〇〇万円の三口の合計)の鉄道抵当権設定認可(運輸大臣)
 8・10 バス北野田線延長(大野芝〜大美野噴水前間)営業開始
 8・23 バス春木線の一部(久米田駅前〜久米田間)営業廃止
 8・16 羽倉崎車庫使用開始
 9・9 紀ノ川変電所新舎屋竣工
 9・9 一般乗合旅客自動車八両新造
 9・9 一般貸切旅客自動車五両新造
 9・9 一般乗合旅客自動車一〇両新造
 10・1 高石町 淡輪 天見 紀見峠各駅の貨物取扱廃止 箱作駅急行小口扱
 10・1 小口扱 トン扱貨物の取扱廃止 車扱貨物の到着取扱廃止
 10・1 御幸辻駅急行小口扱貨物の到着取扱廃止
 11・5 自動車泉佐野営業所新設
 11・5 旅客交通量調査実施
 12・1 バス岸和田市内線 岡山線 北野田線 父鬼線 泉大津線および片藏
 12・1 線延長営業開始
 12・1 バス父鬼 泉大津線(戎野〜和泉府中間) 片藏線(平井〜伏尾間) 営
 業廃止
 12・27 今宮変電所水銀整流器二〇〇〇キロワット新設
 12・27 開通七〇周年

昭和31年
一九五六

1・21 バス国道線(草部系統)および川中線運賃改定認可(綾ノ町電停〜工
 業学校前間)一〇円(運輸大臣)
 2・1 下古沢 上古沢 紀伊細川 紀伊神谷 極楽橋 高野山各駅貨物取扱
 廃止
 2・20 バス事業 対有田鉄道(株)運輸協定認可(運輸大臣)
 2・3 第三回物上担保付社債総額金六億円の内第二回発行分として第三回ろ
 号物上担保付社債金二億円発行(償還期限昭和三十八年二月二〇日)
 3・ 一般乗合旅客自動車一四両新造
 4・1 バス熊取線延長(小谷〜水間間)営業開始
 4・1 自動車天下茶屋営業所新設(難波から移転改称)
 4・16 和歌山港線久保町〜和歌山港間鉄道貸借(対和歌山県)認可(運輸大
 臣)
 5・1 (株)南海会館設立(資本金一億円)
 5・6 和歌山市駅進路選別電気式継電運動装置使用開始
 5・6 和歌山港支線開通(あわ号運転)
 5・6 南海観光汽船(株)「南海丸」就航
 5・14 常務取締役吉田卯之吉逝去
 6・4 春木変電所一五〇〇キロワット水銀整流器新設

3・ 富士写真フィルム 国産初の本格的電子計算機完成
 4・16 日本道路公団設立
 5・9 日本マナスル登山隊登頂に成功
 6・1 大阪市営地下鉄 花園町〜岸里間開通
 7・20 動力車操縦者運転免許に関する省令公布
 8・10 六甲山ドライブウェイ開通
 9・1 和泉市制施行
 10・19 日ソ国交回復に関する共同宣言調印
 10・28 大阪新世界「通天閣」再建
 11・19 東海道本線全線電化完成
 12・23 国連総会 日本の国連加盟を可決
 石橋湛山内閣成立

当社

一般

6・11	ストロージャー自動交換機使用開始(浜寺交換)	6・11	小林一三翁逝去
6・27	バス事業運輸協定(対大阪市)変更(皿池町停留所新設)	6・25	南極昭和基地開設
7・1	大阪府内タクシー部門を南海交通(株)へ譲渡	2・25	第一次岸信介内閣成立
7・5	南海交通(株)設立(資本金五〇〇万円)	8・20	近畿日本鉄道 冷房特急運転開始
7・31	鋼索鉄道最大乗車人員設定認可(運輸大臣)	8・27	東海村の原子炉に「原子の火」ともる
8・31	バス浅香線延長(浅香→河内天美駅前通間) 営業開始	10・1	五千円札発行
9・1	バス尾崎線営業開始	10・4	ソ連 世界初の人工衛星打上げ成功(スプートニク一号)
9・	一般乗合旅客自動車一三両新造	10・14	上野動物園→分園間モノレール開業(モノレールのはじめ)
9・	一般貸切旅客自動車五両新造	12・18	百円硬貨発行
11・5	旅客運賃改定(難波→和歌山市間一六〇円を一三〇円に特定)	12・25	難波地下センター開業(大阪市内はじめて)
	南海本線一八区 加太支線二区 高野線(汐見橋→河内長野間) 九区		
	阪堺線五区 上町線二区 平野線二区		
	鋼索線 五〇円		
11・12	定款一部変更(発行株式総数を九六〇〇万株に改正 新株引受権を削除 五〇〇株券を新たに発行 定時株主総会招集日を決算期後二か月以内に改正 会長 副社長制度を新設)		
11・12	専務取締役壺田修は副社長に 常務取締役稲次國利は専務取締役に就任 増田金一は常務取締役に 橘真琴は常任監査役に就任		
	常務取締役中村利孝は取締役に就任		
	常任監査役宇都宮綱郎は退任		
11・11	社則一部改正(副社長制度採用)		
11・16	汐見橋駅改築完成		
11・18	バス玉川線営業開始		
12・12	バス牛滝支線延長(岡山→箕形間) 営業開始		
12・12	鉄道線電動客車四両新造(カルダン駆動方式)		
1・1	昭和三十二年		
1・29	南淡輪駅をみさき公園駅と改称		
1・31	増資 資本金二四億円となる(増加分金一二億円)		
2・16	狭山遊園事業場営業再開		
2・16	南海観光開発(株)設立(資本金五〇〇万円)		
3・	一般乗合旅客自動車四両新造		
4・1	手小荷物運賃改定		
4・1	貨物運賃割引賃率および貨車特殊取扱方の制定		
4・1	貨物運賃料金改定		
4・1	急行小口扱貨物取扱廃止 宅扱貨物制度の制定		

4・1	みさき公園開園（世界探検博開催）
4・12	旅客運賃改定
4・12	（難波）和歌山市間一六〇円を一五〇円に特定）
4・12	くろしお号連絡準急行料金変更（難波）和歌山市間四〇円）
4・29	南海汽船（株）わか丸就航
5・17	マイクローエープ無線局予備免許（郵政大臣）
6・1	バス深日線延長（みさき公園駅前）淡輪駅前間）営業開始
6・15	バス橋本線営業開始
6・19	鉄道線電動客車三両 付随客車一両新造
6・29	加賀田信号所新設使用開始
7・1	鉄道線列車発着時刻改正（四国連絡増発 高野線所要時分短縮）
7・2	加太支線列車集中制御装置着工
8・1	千早口駅手小荷物および貨物の取扱廃止
8・2	鉄道線電動客車四両新造（カルダン駆動方式）
8・13	和泉市内バス運営協議会発足
8・19	マイクローエープ無線中継装置使用開始
8・19	クロスバー自動交換機使用開始（難波交換）
8・20	本社事務所 南海会館に移転完了
8・26	鉄道線電動客車四両新造（カルダン駆動方式）
8・31	貝塚変電所二二五〇キロワット水銀整流器新設
9・3	南海本線特急および急行一部五両編成運転開始
9・30	バス金田線延長（堺放送所前）北余部間）免許および運賃認可（運輸大臣）
9・	一般乗合旅客自動車一両新造
10・1	登美丘第三住宅一六戸（四九五〇㎡）を分譲
10・10	諏訪の森団地一万三〇〇㎡（四〇戸）を大阪府にあっせん
10・21	浜寺第二鉄筋住宅一二戸（三三〇〇㎡）船尾木造住宅一二戸（三三〇〇㎡）を分譲
10・21	南海自動車興業（株）設立
10・21	南海会館竣工
10・25	難波駅出札室改造ならびにホームその他改装
11・1	和歌山鉄道（株）は和歌山電気軌道（株）に合併
11・18	浜寺第一鉄筋住宅一五戸（三八六一㎡）高石木造住宅二六戸（六六〇〇㎡）を分譲
11・19	井原里無人変電所新設（二二五〇キロワット水銀整流器）
11・20	中百舌島団地九万九〇〇㎡（二〇〇〇戸）を日本住宅公団にあっせん
11・30	諏訪の森団地三七九五㎡を国際電々公社にあっせん

12 12 12 12 12
 25 24 11
 堺整備工場新設
 堺東無人変電所新設（一五〇〇キロワット水銀整流器）
 住ノ江自動交換機完成（一〇〇〇回線）
 南海線カルダン車（一一〇〇一形 一一一〇〇一形）一二両新造
 大阪軌道線車両（五〇一形）五両新造

昭和33年
一九五八

1 1 1 1 1
 15 15 15 15 15
 河内長野野駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更
 バス野遠北野田線路線延長（放送所前ノ北余部間）営業開始
 南海汽船（株）「南海丸」遭難事故発生
 岸ノ里駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更
 南海ビル一部改装（旧本社事務所）
 羽倉崎駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更
 一般乗合旅客自動車八両新造
 一般貸切旅客自動車二両新造
 加太支線列車集中制御装置完成
 北野田木造住宅一五戸（三九六〇㎡）を分譲
 バス水間線（河合ノ水間観音前間） 葛城線路線延長（下垣内ノ阿間ヶ滝間）営業開始
 河内長野野駅折返線を新設
 中百舌鳥運動場前駅営業廃止
 浅香山駅車扱貨物取扱廃止
 堺東駅前広場バス乗車口新築
 南紀観光バス（株）設立
 忠岡第一・第二木造住宅六一戸（一万四五二〇㎡）を分譲
 高野線ズームカー（二一〇〇一形 二一一〇〇一形）八両新造
 高野線快速列車（ズームカー四両二編成）運転開始
 バス黒鳥線（繁和住宅前ノ自衛隊前間）営業開始
 北野田第二木造住宅二二戸（五二八〇㎡）を分譲
 高野山駅々舎改装
 天下茶屋工場トラバパーサー（二三メートル 五〇トン）の設置および構内配線替え
 一般乗合旅客自動車一二両新造
 一般貸切旅客自動車三両新造
 春木泉ヶ丘団地一五万八四〇〇㎡（七八〇戸）を大阪府にあっせん
 バス布忍線路線延長（更池口ノ野遠間）営業開始
 監査役古家徹之助は退任 岡野清豪は監査役に就任

12 12 11 10 7 6 5 3 3 2 1 1
 23 1 30 11 12 31 17 10 31
 米国 人工衛星打上げ成功（エクスプローラー一号）
 浜寺公園接収解除
 伊丹空港を大阪空港と改称（昭和三十四年七月三日大阪国際空港と改称）
 大阪市営地下鉄 岸里ノ玉出間開通
 第二次岸信介内閣成立
 近畿日本鉄道 二階電車（ビスタカー）運転開始
 大阪新歌舞伎座開場
 国鉄ビジネス特急「こだま」運転開始（東京ノ大阪六時間五〇分）
 一万円札発行
 東京タワー完成

昭和34年
一九五九

11・28 中之島温泉土地(株)設立
11・30 浅香山駅改良工事竣工
12・11 バス黒土線路線延長(厚生病院前〜給水塔前間) 営業開始
12・12 新和歌遊園(株)設立
12・18

バス泉大津線路線延長(若樫〜出口間) 営業開始
バス高野山線天狗木付近転落事故
乗合バス運賃改定実施(認可一月九日)(全線)

3・16 1 1 1
バス岩湧線路線延長(加賀田口〜神納間) 高向線路線延長(西代〜高向間) 営業開始
自動車局堺営業所新築

3・9 3 3 3
泉大津木造住宅二二戸(五九四〇㎡) 高師浜鉄筋住宅一〇戸(二八〇五㎡)を分譲
一般乗合旅客自動車一両新造

3・1 3 3 3
一般貸切旅客自動車二両新造
さやま遊園復旧工事の完成に伴い 南海観光開発(株)に経営委託し遊園事業再開

4・1 4 4 4
みさき公園観光リフト完成
橋本自動交換機完成(五〇回線)

4・28 5 5 5
中野変電所五〇〇キロワットシリコン整流器新設(わが国最初の実用運転)

6・1 6 6 6
業務組織変更(経営企画室を経営企画局に改め 企画部 監理部をおく 弘報課を廃止 事業部から住宅経営部を独立)
社長小原英一は会長に 副社長壺田修は社長に 専務取締役稲次國利は副社長に就任 取締役会長小原英一は代表取締役を辞任

6・26 6 6 6
南海交通(株)へタクシー部門譲渡(高野山地区)
堺東駅構内地下道新設

6・30 6 6 6
高野線ズームカー(二一〇〇一形 二二一〇〇形)四両新造
南海線通勤車(一五二一形 三八〇一形)六両新造

7・15 7 7 7
南紀直通ディーゼルカー(五五〇一形 五五五二形)三両新造
南紀直通ディーゼル準急「きのくに号」(往路第二きのくに号 復路第三きのくに号(当時))難波〜白浜口間に全車座席指定制で運転開始

7・15 7 7 7
南紀直通列車に特別急行料金制定
河内長野駅改築完成

7・21 7 7 7
高石木造住宅四八戸(一万四六八五㎡)を分譲
湊海水浴場閉鎖

8・31 8 8 8
バス葛城線路線延長(東岸和田駅筋〜流木間) 営業開始
社内誌「親和」創刊

9・1 9 9 9
バス葛城線路線延長(東岸和田駅筋〜流木間) 営業開始
社内誌「親和」創刊

9・25 9 9 9
社内誌「親和」創刊

メートル法実施

1・14 1 1 1
原子力研究所国産第一号原子炉起工
黒部トンネル開通

2・18 2 2 2
京阪神急行電鉄 梅田〜十三間三複線開通(わが国私鉄はじめて)

4・15 4 4 4
皇太子殿下御成婚
最低賃金法施行

4・20 4 4 4
東海道新幹線起工
紀勢本線全通

8・26 8 8 8
国道一六八号線開通(五条〜新宮間)
伊勢湾台風来襲

9・26 9 9 9
ソ連月ロケット 月の裏側の写真撮影
近畿日本鉄道 名古屋線軌化完成

11・27 11 11 11
岩戸景気
マイカー時代はじまる

9	1	一般乗合旅客自動車二両新造
9	1	一般貸切旅客自動車一両新造
10	1	バス細川線路線延長（高野警察署前～細川間）営業開始
10	1	泉大津団地五五四㎡を関西電力（株）に分譲
10	10	高石木造住宅五〇戸（一万二八六〇㎡）を分譲
10	15	バス鳴滝線路線延長（安松南～鳴滝間）営業開始
10	20	バス鳴滝線路線延長（安松南～鳴滝間）営業開始
10	29	南海ホークス 日本シリーズ初優勝（対巨人 四勝〇敗）
11	12	定款の一部変更（取締役の員数を二名以内から八名以上に 監査役の員数を三名以内から二名以上に変更）
11	12	社則の一部改正（常勤取締役会構成員の変更）
11	12	田邊勇 上西勲 高橋重雄は取締役に就任
11	12	中モズ第一木造住宅三〇戸（八一五一㎡） 中モズ第二鉄筋住宅一〇戸（二五〇八㎡）を分譲
12	20	紀ノ川口支線（妻信号所～紀ノ川口間）の営業廃止
12	22	会長小原英一逝去
12	28	小原会長社葬

昭和35年
一九六〇

1	20	南海本線ダイヤ改正（高石町～難波間準急新設など）	1	19	新安保条約調印
1	20	堺変電所の二二五〇キロワット水銀整流器新設	2	23	浩宮徳仁親王ご誕生
2	16	バス九度山線（橋本駅前～九度山駅前間）営業開始	3	26	近畿日本鉄道 特急座席の予約装置完成（わが国私鉄はじめて）
2	20	バス牛滝支線路線延長（川中道～柑橋試験場前間）営業開始	4	30	ソニー世界最初のトランジスタテレビ発売（六万九八〇〇円）
3	1	狭山第一木造住宅一四戸（三八六一㎡）を分譲	6	25	道路交通法公布（二月二〇日施行）
3	13	取締役岡田意一逝去	7	1	国鉄三等車廃止
3	25	狭山第二木造住宅三〇戸（八一八㎡）を分譲	7	1	大阪市営地下鉄 西田辺～我孫子間開通
3	26	白浜自動車（株）へ経営参加	7	19	第一次池田勇人内閣成立
3	30	阪堺線堺市内（綾ノ町～御陵前間）軌道の移設	7	20	高野山有料道路開通
3	31	南海白浜観光（株）設立（白浜町営ロープウェイ譲受）	9	5	経済の高度成長 所得倍増策発表
3	31	一般乗合旅客自動車一五両新造	9	10	NHKテレビ カラー放送開始
3	31	一般貸切旅客自動車六両新造	10	10	社会党の浅沼委員長刺殺
4	1	バス九度山線路線延長（九度山駅前～河根間）営業開始	10	8	第二次池田勇人内閣成立
4	1	特別扱小荷物（新聞 雑誌）の運賃変更実施			
4	1	石津川駅 滝谷駅の貨物取扱廃止			
4	7	新宮タクシー（株）買収			
4	27	南海不動産（株）設立			
6	1	南紀直通列車の特別急行料金変更実施（四〇円を二〇円に）			
6	13	極楽橋自動交換機完成（二〇回線）			

昭和三十六年 一九六五	2	2	2	12	12	12	11	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	8	8	8	7	7	7	7	6
南紀直通ダイヤル準急「南紀号」(往路南紀一号 復路南紀二号) 難波↗新宮間に運転開始	1	1	1	25	15	15	12	22	22	12	10	5	9	9	20	15	10	10	1	1	18	11	1	1	21
泉大津第二木造住宅三二戸(八九一〇㎡)を分譲																									
バス九度山線路線延長(赤瀬橋↗笠木間) 営業開始																									
南海本線通勤車(一五二一形 三八〇一形) 六両新造																									
(株)ホテルパシフィック設立																									
堺東自動交換機完成(一〇〇回線)																									
自動車局橋本営業所営業開始																									
南海バス(株)へ経営参加																									
美原 助松 春木団地 二二万一一〇〇㎡(一三〇二戸)を大阪府にあっせん																									
天王寺民衆駅に当社専用部分を新設																									
助松団地一三万二〇〇㎡(一五〇〇戸)を日本住宅公団にあっせん																									
バス黒鳥線路線延長(市宮住宅前↗山荘間) 田園線路線延長(田園↗見野山間) 営業開始																									
堺東駅貨物取扱廃止																									
南紀直通ダイヤルカー(五五〇一形 五五五二形) 三両新造																									
一般乗合旅客自動車二五両新造																									
一般貸切旅客自動車八両新造																									
交通センサス実施																									
中百舌島土地一万六五〇〇㎡を八幡製鉄(株)の社宅用にあっせん																									
バス川中線路線延長(長承寺↗毛穴間) 営業開始																									
住吉東駅上り副本線を新設																									
住吉東駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更																									
常務取締役楠美喬 同藤谷昂二は専務取締役に 取締役田邊勇 同上																									
西勲 同高橋重雄は常務取締役に 監査役岡野清豪は取締役に 垂井清之助は監査役に就任																									
助松駅を松ノ浜駅と改称																									
南海汽船四国航路増便に伴い連絡列車「あわ号」増発																									
南海線カルダン車(一一〇〇一形 一一一〇〇形) 五両新造																									
裏日本で大雪 国鉄約一〇〇本立往生 約一五万人列車内で越	1	1	1																						
国民皆保険制度発足																									
大阪環状線 西九条↗天王寺間開通																									
浜寺公園再開																									
大阪アルミニウム国産初のホバークラフト公開																									
大阪 釜ヶ崎で騒動起こる																									
第二室戸台風来襲																									
東京 大阪 名古屋の証券市場に市場第二部が発足																									

3・31	工 五万ボルトの岸和田系送電線および変電所施設の二万ボルト化工事竣	11・7	踏切道改良促進法公布
3・	一般乗合旅客自動車一四両新造		
3・	一般貸切旅客自動車八両新造		
4・1	白浜ホテルパシフィック開業		
4・1	中百舌鳥第三木造住宅一二戸(二九七〇㎡)を分譲		
4・6	手小荷物 貨物運賃ならびに運輸に関する料金改定実施		
4・25	バス鳴滝線路線延長(檜井ノ新家駅前間) 営業開始		
5・8	バス貝田線路線延長(貝田ノ泉ヶ丘住宅前間) 営業開始		
5・10	バス熊取線路線延長(水間観音前ノ水間駅前間) 東山線路線延長(東山ノ小坂間) 営業開始		
5・12	久保亀夫は常務取締役就任		
5・12	高野線第一次スピードアップに伴う軌道工事完成		
6・5	バス金熊寺線路線延長(金熊寺ノ童子畑間) 営業開始		
6・20	(株)浜寺スイミングセンターへ経営参加(元浜寺ヘルスセンター(株)堺変電所二〇〇キロワットシリコン整流器新設		
6・29	「新こうや号」(二〇〇〇一形 二〇一〇〇形 二〇一八〇一形)四両新造		
7・1	友ヶ島自然公園キャンプセンター完成		
7・1	浜寺ヘルスセンター営業開始		
7・5	住吉東駅下り副本線を新設		
7・5	高野線のダイヤ改正(第一次スピードアップ)		
7・5	特急「新こうや号」運転開始		
7・5	バス曾根線路線延長(春日町ノ南曾根間) 泉大津市内線路線延長(田中町ノ浜小学校前間 保健所前ノ大津港間) 営業開始		
8・4	臨時株主総会「和歌山電気軌道(株)と締結した合併契約書承認の件」を承認		
8・5	冷房観光バス運転開始		
8・26	大阪湾航送船(株)へ経営参加		
8・31	浜寺・諏訪ノ森海水浴場閉鎖		
9・13	淡の輪観光(株)設立		
9・16	バス岸和田市内線路線延長(下磯の上ノ西大路間) 営業開始		
9・	一般乗合旅客自動車五二両新造		
9・	一般貸切旅客自動車一〇両新造(うち二両は冷暖房車)		
10・1	橋本駅列車扱業務を分離		
10・1	バス南循環線路線延長(浅香山通ノ八幡町間) 営業開始		
10・10	千代田台団地二九万七〇〇〇㎡(一〇〇〇〇戸)を大阪府にあっせん		

11・30	11・21	11・1	10・26	10・10	10・3	10・1	9・	9・	9・1	9・	8・31	8・1	8・1	7・15	7・1	7・1	6・15	6・10	6・25	5・1	5・26	4・25	4・20	4・20	4・13	4・13	
バス土丸線路線延長（鶴原駅前通）貝田 鶴原口～土丸間）営業開始	初芝木造住宅六戸（一八四八㎡）店舗付木造住宅四戸（三三〇㎡） 中モズ第四鉄筋住宅一戸（三〇六九㎡）店舗付鉄筋住宅二戸（三三〇㎡）を分譲	初芝木造住宅六戸（一八四八㎡）店舗付木造住宅四戸（三三〇㎡） 中モズ第四鉄筋住宅一戸（三〇六九㎡）店舗付鉄筋住宅二戸（三三〇㎡）を分譲	バス環状線路線延長（高千穂橋～新堀橋間）営業開始 鉄道 軌道旅客運賃改定	大阪軌道線駅制を廃止し 軌道運輸事務所を新設 白鷺団地一八万八〇〇㎡（二五〇〇戸）を日本住宅公団にあっせん	バス環状線路線延長（高千穂橋～新堀橋間）営業開始	一般貸切旅客自動車九両新造（うち冷房車三両） バス黒土線路線延長（厚生病院前～黒土町間）営業開始	一般乗合旅客自動車三七両新造	南海ビル一部改造工事完成（三和銀行入居に伴う）	南海線カルダン車（一〇〇形 一一〇形）一〇両新造	バス泉大津線路線延長（松尾口～松尾寺間）営業開始	羽衣・高師浜海水浴場閉鎖	天王寺民衆駅完成（西口 出改札業務分離）	高野線ズームカー（二一〇〇形 二二〇〇形）四両新造	中モズゴルフ場拡充工事の竣工およびナイター打放場完成 日野間）営業開始	バス布忍線路線延長（大浜～大浜西町間） 高向線路線延長（高向～ 不動産部に分割）	業務組織変更（企画部から調査部を独立 住宅経営部を住宅開発部と 大阪軌道線車両（三五形）二両新造	バス牛滝線路線延長（岸城中学校前～上松間）営業開始	中百舌鳥～初芝間架道橋新設工事	天皇 皇后両陛下 和歌山市へ行幸啓 和歌山線經由で還幸	九度山～極楽橋間に列車集中制御装置完成	自動車局堺東営業所新築	線路線延長（北榎町～初芝駅筋間 平尾～富田林駅前間）営業開始	九度山～極楽橋間各駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更 バス布忍線旧道經由路線延長（布忍駅前～河内松原駅前間） 富田林 線路線延長（北榎町～初芝駅筋間 平尾～富田林駅前間）営業開始	九度山～極楽橋間単線自動閉そく装置新設	初芝第一鉄筋住宅二〇戸（五七四二㎡）を分譲	和歌山自動車整備工場二級重整備工場の再認定 津間一日一往復）	・多度津に連絡準急「あさ号」一日二往復運転開始（阿波池田～多度 津間一日一往復）

昭和38年 一九六三			
11・1	自動車局天下茶屋営業所増築		
12・1	バス有料道路路線延長(細川口〜大門間) 細川線路線延長(細川口〜笠木間) 営業開始		
12・15	バス冬野線路線延長(安原小学校前〜安原間) 六十谷線路線延長(六十谷〜紀伊駅前) 営業開始		
12・20	バス葛城線路線延長(流木口〜流木町間) 営業開始		
12・24	バス細川線路線延長(細川〜細川口) 中津川線路線延長(中津川口〜中津川間) 営業開始		
12・	高野線ステンレスカー(六〇〇一形 六八〇一形) 三両新造		
1・1	バス田園線路線延長(田園〜高蔵寺間) 営業開始	2・5	日ソ貿易協定調印
1・25	高野線大型車乗入れに伴う諸工事完成(主として難波〜三日市町間ホームこう上 橋桁補強)	4・16	京阪電気鉄道 淀屋橋〜天満橋間開通
2・1	国鉄利用債引受けにより 四国連絡に接続する国鉄小松島港〜多度津間準急を松山まで延長し「いしづち号」となる	4・25	大阪駅前になが国最初の横断歩道橋完成
2・1	樽井駅連動装置を第一種電気継電連動装置に変更	5・1	狭山事件発生
2・10	バス鳴神線路線延長(鳴神住宅〜鳴神団地間) 営業開始	6・5	関西電力 黒部第四ダム完成
2・15	バス松江木の本線路線延長(古屋〜木の本間) 西浜新和歌線(和歌山市駅前〜新和歌遊園) 営業開始	7・10	大阪府営浜寺プール開場
2・20	バス美木多線路線延長(菱木〜三木閉間) 営業開始	9・1	国鉄 ATS使用開始
2・24	三日市変電所〜天見変電所間送電線を鉄道添架にする工事竣工	10・1	近畿日本鉄道 奈良鉄道を合併
3・1	御幸辻 高野下駅貨物取扱廃止	11・1	新千円札発行
3・18	(株)南海徳バスビルディング設立	11・22	ケネディ米大統領暗殺
3・29	伊太祁曾変電所五〇〇キロワットシリコン整流器新設	11・29	梅田地下街開業
3・	一般乗合旅客自動車三七両新造	12・9	第三次池田勇人内閣成立
3・	一般貸切旅客自動車一両新造		
4・1	増資 資本金四〇億円となる(増加分金一四億五〇三一万八七五〇円)		
4・8	バス紀伊打田線路線延長(四日市〜打田駅前) 営業開始		
4・12	岸和田駅連動装置を第一種電気継電連動装置に変更		
4・25	バス南循環線(堺駅前〜築港南町間) 営業開始		
5・15	天下茶屋工場定期検査場新築		
5・23	業務組織変更(指導課 踏切保安課を新設 自動車局庶務部 業務部を業務部 整備部に変更)		
5・27	バス葛城線路線延長(河合〜塔原間) 営業開始		
5・28	高野山営業所立里線および中津川線用バス三両に超短波無線設備の使用開始		
6・5	乗合バス運賃改定(認可五月二一日(全線))		
6・6	南海ビルの冷房用冷凍機増設(四〇〇冷凍トン三台撤去 八〇〇冷凍		

当社

11	11	11	11	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7	7	7	7	7	6	6		
28	22	8	1			23		10	10	10	10	1	1					25	18	18	10		9	28		
<p>トン二台新設)および冷却塔新設 和歌山整備工場 指定整備工場となる 高野線ズームカー(二一〇〇一形 二二一〇〇形)八両新造 バス和歌山京都線(新和歌浦と京都三条南口間)営業開始(京阪自動車(株)と相互乗入れ) (株)南海電鉄スーパーストア設立 竈山 伊太郎曾駅貨物取扱廃止 吉見ノ里駅貨物設備増強工事竣工 電気機関車(センターキャブ式三五トン)四両新造 バス片蔵線路線延長(伏尾と野田尾間)営業開始 バス泉大津線路線延長(久井と出口間)営業開始 深日変電所に一〇〇〇キロワットシリコン整流器新設 高野線ステンレスカー(六〇〇一形 六八〇一形)九両新造 白鷺駅前鉄筋住宅六戸(一七四九m²)を分譲 アルミニウム電線増設工事(六六〇mm²・七五km)竣工 自動車局泉大津営業所和泉府中出張所新設 高野線第二次スピードアップに伴う軌道補強工事完成(主として重レール化 道床改良 カント変更) バス狭山線路線延長(さやま遊園前と金剛駅前)営業開始 バス牛滝支線 父鬼線路線延長(浦田と川中上間)営業開始 一般乗合旅客自動車三八両新造(うち和歌山京都線用冷房車二両) 一般貸切旅客自動車四両新造(うちデラックス車二両 高速デラックス車一両) 高野線ダイヤ改正(第二次スピードアップ) バス九重線(橋本駅前と九重間) 葛谷線(名手と葛谷間)営業開始 本社事務所で時差出勤実施 金剛団地 一八一万五〇〇m²(八〇〇〇戸)を日本住宅公団にあつせん 南海ビル四〇〇KVA自家発電設備増設 和歌山軌道線全金属製車両(三三二一形)七両新造 南海線通勤車(七〇〇一形 七八〇一形 七九〇一形)一五両新造 和歌山軌道線のダイヤ改正(新車投入に伴う) 熊野開発観光(株)設立 常務取締役市川壽雄 同増田金一は専務取締役に就任 専務取締役楠見喬は取締役に就任 千代田第一団地鉄筋住宅三二戸(八九一〇m²) 千代田第三団地木造</p>																										

一般

昭和39年
一九六四

住宅三四戸(九五七〇㎡)を分譲	12	1	1						
白鷺駅前宅地四五区画(二万一〇五五㎡)を分譲	12	1	1						
四国連絡特急「あわ号」「とき号」の全列車に一部座席指定制を実施(指定料金一〇〇円)	12	1	1						
自動車局和歌山港 岩出営業所新設営業開始	12	7							
葛葉変電所三〇〇〇キロワットシリコン整流新設	12	26							
一般貸切旅客自動車一両新造(冷暖房デラックス車)	12	26							
運転指令電話を周波数選別式に改良	12	30							
大阪軌道線(三五一形)三両新造	12								
自動車局河内長野出張所新設	12								
自動車局岩出営業所整備場新設	12								
バス初芝線路線延長(初芝駅前〜関茶屋間) 営業開始	1	1							
バス橋本急行線系統新設(和歌山市駅前〜橋本駅前)	1	1							
千代田無人変電所新設(一〇〇〇キロワットシリコン整流器)	1	11							
みさき公園 さやま遊園の南海観光開発(株)への経営委託解除により直営化	2	16							
紀見峠〜御幸辻間一部複線化工事竣工	2	25							
千代田第二団地鉄筋住宅三三戸(九五七〇㎡)	2	28							
住宅四一戸(一万一一二一㎡)を分譲	2	25							
白鷺駅前店舗付鉄筋住宅一九戸(二〇四六㎡)を分譲	3	1							
鳴門公園ヘルセンター開業	3	7							
バス尾崎線路線延長(尾崎駅前〜下出間) 営業開始	3	10							
学校法人南海学園廃止	3	31							
一般乗合旅客自動車五八両新造	3	3							
一般貸切旅客自動車四両新造	3	3							
バス和歌山印南線(和歌山市駅前〜印南浜間) 営業開始(南海バス(株)と相互乗り入れ)	4	1							
バス泉大津市内線路線延長(大津港〜西港町間) 営業開始	4	13							
高野線紀ノ川橋りょう橋桁架替工事竣工	4	15							
春木変電所無人化工事竣工	4	20							
葛葉変電所無人化工事竣工	4	23							
貴志川線車両のトロリーポールをパンタグラフに改造	5	18							
高野線ダイヤ改正(快速急行増発および直行新設)	5	20							
泉佐野駅貨物取扱廃止	5	20							
自動車局東山営業所新設営業開始	6	11							
バス三宝線路線延長(松屋〜松屋大和川通間) 片蔵線路線延長(明正〜鉢ヶ峯間) 営業開始	6	11							

日本鉄道建設公団法公布(三月二三日発足)	2	29							
大阪環状線 環状運転開始	3	22							
大阪環状線 新今宮駅竣工	3	22							
海外旅行自由化	4	1							
新潟を中心に大地震	6	16							
山陽本線全線電化完成(一〇月一日開業)	7	25							
名神高速道路 西宮〜一宮間全通	9	25							
大阪市営地下鉄 梅田〜新大阪間開通	9	24							
東海道新幹線営業開始	10	1							
東京オリピック開催(第一八回)	10	10							
第一次佐藤栄作内閣成立	11	9							

6・27	御幸辻駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更
6・8	高野線ズームカー(二一〇〇一形 二一一〇〇形)八両新造
7・7	バス養護学校線(堺東駅前)養護学校前 堺東駅前)養護学校分校前
7・10	間)営業開始
7・11	千代田経営地宅地三四区画(一万二三〇㎡)を分譲
7・11	神谷変電所一〇〇キロワット回転変流器増設
7・22	バス東山線路線延長(万崎)小坂西口間)営業開始
8・1	新和歌レジャーセンター 旅館「萬波」開業
8・3	旅館「朝日」開業
8・3	監査役小林尚一逝去
8・3	友ヶ島池尻ダム竣工
8・12	橋本駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更
8・14	狭山駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更
8・14	和歌山港支線に自動閉そく方式を実施
8・19	自動車局和歌山港営業所認証整備工場新設
8・19	自動車局岩出営業所認証整備工場新設
8・20	(株)紀の川苑設立
8・31	助松海水浴場閉鎖
9・1	バス中南線(高野山駅前)中南間) 裾尾線路線延長(津久野駅前)堀上緑町一丁目) 志賀線路線延長(笠田口)笠田駅前間) 四郷線路線延長(広口駐在所前)東谷間)営業開始
9・10	白鷺追加土地一万六五〇〇㎡を日本住宅公団にあっせん
9・20	みさき公園駐車場第一期工事完成
9・21	高松変電所七五〇キロワットシリコン整流器新設
9・26	堺東駅改築完成
9・9	一般乗合旅客自動車四一両新造
9・9	一般貸切旅客自動車八両新造
10・1	羽衣 蛸地藏 鶴原 鳥取ノ荘 孝子 紀ノ川 深日町 我孫子前 中百舌鳥 滝谷 紀見峠 紀伊細川の一二駅の荷物取扱廃止
10・1	バス葛城線路線延長(流木)東岸和田間)営業開始
10・3	南海不動産(株)の堺東ビル竣工
10・10	南海ホークス 日本シリーズ優勝(対阪神四勝三敗)
10・17	高石町駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更
11・4	乗車券センター室設置
11・5	千代田第五団地木造住宅一七戸(四七八五㎡) 千代田第六団地木造住宅三五戸(七五五七㎡)を分譲

昭和40年
一九六五

11・12	貴志川線高圧配電線新設工事（東和歌山～日前宮間および伊太郎曾貴志間）完成	11・12	山陽特殊鋼 戦後最大の倒産
11・22	浅田敏章は監査役に就任	11・21	愛知県に「明治村」開村
11・11	高野線ステンレスカー（六〇〇一形 六九〇一形）三両新造	10・24	近畿日本鉄道 三重電気鉄道を合併
11・11	高野線通勤車（七〇〇一形 七八〇一形 七九〇一形）一〇両新造	10・21	国鉄 みどりの窓口を開設
12・1	南海線通勤車（七〇〇一形 七八〇一形 七九〇一形）一〇両新造	10・21	大阪市営地下鉄 西梅田～大國町間開通
12・1	高石町駅上り副本線新設	10・1	南海ホークス野村克也 打撃部門の三冠王獲得
12・1	貸切バス運賃および料金改定実施（認可九月四日 大阪府下 和歌山県下）	10・1	朝永振一郎 ノーベル物理学賞受賞決定
12・15	高野山専用道路の改良工事竣工	11・1	東海道新幹線 東京～大阪間三時間一〇分運転開始
12・16	千代田第七団地木造住宅四一戸（八八七七㎡）を分譲		
12・17	高野山ケーブルカー（「コ」一形 二一形）四両新造		
12・17	高野山ケーブルカー（鋼索線）二両連結運転開始		
12・17	高野山駅発着となる手小荷物の自動車による代行輸送実施		
12・20	千代田経営地宅地三九区画（一万一五五〇㎡）を分譲		
12・25	南海汽船四国航路 カーフェリー「きい丸」の就航による増便に伴う連絡特急「きい号」新設		
1・1	ホテル「中の島」別館営業開始	3・6	
1・17	南海徳バスビルディング竣工	3・18	
1・29	初芝駅の連動装置を第一種電気継電連動装置に変更	4・1	
2・1	南海橋本観光開発（株）設立	9・24	
2・1	一般乗合旅客自動車九両新造	10・1	
3・9	高野線橋本～橋谷間列車集中制御装置新設	10・1	
3・18	みさき公園観光ロープウェイ竣工	10・21	
3・18	一般乗合旅客自動車四八両新造		
3・18	一般貸切旅客自動車四両新造		
3・18	一般乗合旅客自動車一六両新造		
3・18	一般貸切旅客自動車六両新造		
4・1	高野山開創一一五〇年記念大法会（四月一日～五月二〇日）大輸送実施		
4・15	高野山営業所中津川線用バス二両に超短波無線設備増設		
5・1	バス臨港五区線（石津町～臨港六区間）営業開始		
5・15	東白鷺木造住宅一〇戸（二〇七九㎡）を分譲		
6・1	南海本線ダイヤ改正（高石町発準急を春木発に延長）		
6・28	住ノ江無人変電所新設（三〇〇〇キロワットシリコン整流器）		
6・28	一般乗合旅客自動車九両新造		
7・1	業務組織変更（社長室事務課と経営企画局部課を統合 社長室とし 企画部と監理部をおき 調査部を廃止 補償課 開発課 車両課 踏		

当社

一般

切保安課を廃止 運輸部審査課を会計部に 住宅開発部に狭山ニュー
 タウン建設事務所を新設)
 バス護摩壇山線路線延長(中南護摩壇山間) 営業開始
 7・5 発車着席券制度制定(南紀一号・二号 臨時しらはま号 難波駅で実
 7・1 施)
 7・22 バス臨港五区線路線延長(東湊電停前)石津町 平岡町)鳳北口 鳳
 北口)大鳥神社前間) 営業開始
 7・29 天下茶屋工場車輪転削盤完成
 7 一般乗合旅客自動車六両新造
 8 千代田第八団地木造住宅六二戸(一万四〇二五㎡)を分譲
 8 一般乗合旅客自動車七両新造
 9 一般乗合旅客自動車一両新造
 9 一般貸切旅客自動車二両新造
 10 狭山ニュータウン現地事務所新設
 10 泉佐野駅地下駅舎化完成 営業開始
 10 八〇周年記念社史「最近の一〇年」 発刊
 10 一般乗合旅客自動車二両新造
 11 乗合バス運賃改定(キ口当たり大阪府下五円二〇銭 和歌山県下五円
 八〇銭)
 11 専務取締役藤谷昂二は副社長に 常務取締役田邊勇 同久保亀夫は専
 務取締役に 池永政彦は取締役に就任 取締役楠美喬 同村松幸圓は
 退任
 12 和歌山営業所藤白浜出張所新設
 12 開通八〇周年
 12 一般乗合旅客自動車一両新造

昭和41年
 一九六六
 1・20 鉄軌道線 旅客運賃改定
 1・1 N型高周波軌道回路装置 使用開始
 2・1 自動車局泉佐野営業所移転
 2・28 千代田車庫完成
 2 一般乗合旅客自動車一八両新造
 3 千代田車庫信号所新設
 3 高野線日曜祝日ダイヤ新設
 3 紀見峠橋本間に列車集中制御装置(CTC)新設
 3 一般貸切旅客自動車六両新造
 3 高野線ステンレスカー(六〇〇一形 六九〇一形)六両新造
 2 全日空 羽田沖で旅客機墜落
 3 カナダ航空機 羽田空港で事故
 3 BOAC機 富上山付近で空中分解
 4 泉北ニュータウン着工
 4 土地建物の計量単位にメートル法を実施
 6 祝日法改正「敬老の日」「体育の日」新設
 9 日本道路公団 天草五橋開業
 10 淡路交通 鉄道線営業廃止
 11 高石市制施行
 11 運輸省 大手私鉄一六社にATS設置を指示
 11 30

昭和42年 一九六七	3 29	4 1	4 1	4 1	4 1	5 31	3 29	2 17	2 11
観光自動車初芝寮完成 増資 新資本金六〇億円となる(增加分金二〇億円)									初の「建国記念の日」 第二次佐藤栄作内閣成立
狭山ニュータウン造成工事着工 樽井九号踏切列車事故									京阪神急行電鉄 北千里駅に自動出改札装置設置(日本はじめ)
一般乗合旅客自動車二二両新造 石津川駅二線橋新設									私鉄経営者協会は日本民営鉄道協会と改称 公害対策基本法公布施行
南海線通勤車(七〇〇一形 七九〇一形 七八〇一形)五両新造 吉見変電所 回転変流器増設工事竣工 中松江駅改良工事竣工 一般乗合旅客自動車四両新造 磯ノ浦一踏切道立体化完成 一般乗合旅客自動車一三両新造 業務組織変更(自動車局に計画部新設) 一般乗合旅客自動車一両新造 一般貸切旅客自動車二両新造 バス新和歌浦、京都間路線運行休止 二里ヶ浜駅改良工事竣工 一般貸切旅客自動車二両新造 一般乗合旅客自動車一四両新造 高野線ステンレスカー(六八〇一形)三両新造 橋本カントリークラブ竣工 社長壺田修は会長に 副社長稲次國利は社長に就任 和歌山車庫に検車庫新設および留置線増線 一般乗合旅客自動車四両新造 一般貸切旅客自動車二両新造 高野線ステンレスカー(六〇〇一形 六九〇一形 六八〇一形)八両 新造									
南海線通勤車(七〇〇一形 七九〇一形 七八〇一形)一八両新造 一般乗合旅客自動車五両新造 一般貸切旅客自動車一両新造 北島支線廃止(東松江、北島間一・八キロ) 南海本線急行六両運転開始 (株)南海航空ビル設立 南海線日曜祝日ダイヤ新設 高石町駅は高石駅と改称 築地橋変電所新設 一般乗合旅客自動車三両新造									

昭和43年 一九六八	2	1	18	天下茶屋駅構内列車衝突事故 一般乗合旅客自動車一両新造
12	12	11	11	一般貸切旅客自動車三両新造
11	11	11	11	一般乗合旅客自動車二両新造
11	11	11	11	一般乗合旅客自動車四両新造
11	11	11	11	南海線通勤車(七〇〇一形 七九〇一形 七八〇一形)一八両新造
11	11	11	11	取締役堀新 常任監査役橘真琴は退任
11	11	11	11	常務取締役上西勲 同高橋重雄は専務取締役に 取締役池永政彦は常務取締役に 田杉進一 加藤吉郎 吉村茂夫は取締役に 取締役中村利孝は監査役に就任
11	11	11	11	高野線ダイヤ改正 特殊信号発光機 使用開始
10	10	10	10	忠岡駅東駅舎改築工事竣工
10	10	10	10	高野線ステンレスカー(六〇〇一形 六九〇一形 六八〇一形)八両新造
10	9	9	9	高野下(紀伊清水および高野下)学文路間に列車集中制御装置(C.T.C)新設
9	9	9	9	高野線ステンレスカー(六〇〇一形 六八〇一形)六両新造
7	7	7	7	一般貸切旅客自動車一両新造
7	7	7	7	一般乗合旅客自動車二両新造
7	7	7	7	箱作駅構内列車衝突事故
7	7	7	7	淡路連絡列車「なると号」増発
7	7	7	7	磯ノ浦駅舎改築工事竣工
7	7	7	7	南海電鉄労働組合会館完成
7	7	7	7	初芝変電所新設
7	7	7	7	自動車局那賀営業所営業開始
7	7	7	7	バス金岡東団地線営業開始
6	6	6	6	「私たちの仕事」社員研修開始
6	6	6	6	一般乗合旅客自動車二両新造
6	6	6	6	業務組織変更(勤労部を人事部に改め教育課を新設 営業局を運輸局と事業局に分割 運輸局に計画部を新設 自動車の計画部を自動車計画部に 業務部を自動車部に改め 自動車部に指導課を 技術局に踏切保安課を新設)
6	6	6	6	一般乗合旅客自動車七両新造
6	6	6	6	業務組織変更(勤労部を人事部に改め教育課を新設 営業局を運輸局と事業局に分割 運輸局に計画部を新設 自動車の計画部を自動車計画部に 業務部を自動車部に改め 自動車部に指導課を 技術局に踏切保安課を新設)

4 4
4 7
12 7
神戸高速鉄道開通
東京霞が関ビル完成

3 . . 2	北助松駅東駅舎営業開始
3 . . 8	天下茶屋工場第三期検査場完成
3 . . .	一般乗合旅客自動車一両新造
3 . . .	高野線ステンレスカー(六〇〇一形 六九〇一形 六八〇一形)四両新造
4 . . 1	南海線通勤車(七〇〇一形 七八〇一形)四両新造
4 . . .	業務組織変更(総務部に広報課および補償課新設 運輸部に運輸第一課 運輸第二課 運輸第三課を新設し 指導課を廃止 住宅開発部に開発課新設 自動車部の指導課を指導第一課と指導第二課に分割) 自動列車停止装置(ATIS)使用開始
4 . . 1	マルチプルタイタンパー導入 保線作業の大型機械化開始
4 . . 15	取締役川勝傳は社長に 専務取締役増田金一は副社長に就任
4 . . 22	取締役会長壺田修 取締役社長稲次國利は辞任
5 . . 28	一般乗合旅客自動車八両新造 南海ビル増築工事起工式
5 . . .	一般乗合旅客自動車一両新造
6 . . 1	堺東駅に多能式自動券売機設置
6 . . 8	移動変電所No2(無人)使用開始
6 . . 15	狭山ニュータウン第一次分譲開始
6 . . 25	三門市町へ天見間に列車集中制御装置(CTC)使用開始(高野線単線区間CTC化完了)
6 . . .	一般乗合旅客自動車一両新造
6 . . .	一般貸切旅客自動車六両新造
6 . . .	移動変電所用特殊貨車二両新造
7 . . 18	三笠宮ご夫妻 高野山へ(特急こうや号ご乗車)
7 . . 20	バス和歌山港へ高野山間特急運行(夏期の土 日曜日)
7 . . 25	百舌鳥八幡駅線橋完成
7 . . .	一般乗合旅客自動車三両新造
8 . . 5	萩原天神駅線橋完成
8 . . 27	岸和田駅線人道橋完成
8 . . 27	箱作淡輪間で道床流出事故
8 . . .	南海線通勤車(七〇〇一形 七八〇一形)四両新造
9 . . 1	業務組織変更(社長室に電子計算課新設)
9 . . 1	紀ノ川駅線橋完成
9 . . 2	住ノ江二号踏切道立体化完成
9 . . 4	千代田車庫に転削盤工場新設
9 . . 15	泉佐野支区建物完成
9 . . 20	高野山に当社の「交通事故物故者諸精霊供養塔」建立

5 . .	関西電力の故障で大阪市中心部が停電・交通機関も混乱
6 . . 6	騒音規制法 大気汚染防止法公布
6 . . 10	小笠原諸島復帰
6 . . 14	郵便番号制度実施
7 . . 1	川端康成 ノーベル文学賞受賞決定
10 . . 17	明治一〇〇年記念式典 日本武道館で開催
10 . . 23	府中市で三億円強奪される
12 . . .	

9	高野線ステンレスカー(六〇〇一形 六九〇一形 六八〇一形)一一 両新造
9	南海線通勤車(七〇〇一形 七八〇一形)一二両新造
10	難波列車区泉佐野支区新設 制服制帽のデザイン変更
10	南海線ダイヤ改正
10	南海線通勤車(七〇〇一形 七八〇一形)四両新造
11	井原里駅舎新築竣工
11	高野線ステンレスカー(六〇〇一形 六九〇一形 六八〇一形)八両 新造
11	一般乗合旅客自動車一五両新造
12	堺地区に多区間ワンマンバス採用 バスワンマンカー化本格開始
12	難波駅に多能式自動券売機一六台設置 駅務機器の導入本格開始
12	難波駅エスカレーター完成
12	一般乗合旅客自動車三八両新造

昭和44年
一九六九

1	業務組織変更(運転指令の独立)
1	ワンマンバス用ターンテーブル 福町バス停付近に設置
1	一般乗合旅客自動車五両新造
2	泉北ニュータウン内バス運行開始
2	高師浜支線高架化工事起工
2	樽井九号踏切道立体化完成
3	一般乗合旅客自動車一九両新造
3	高石駅橋上駅舎化工事完成
4	南海電気鉄道健康管理センター建設工事起工
4	ホテル南海竣工
4	樽井駅こ線橋完成
4	一般乗合旅客自動車一〇両新造
4	一般貸切旅客自動車一両新造
5	業務組織変更(事業局に住宅経営部新設)
5	金剛団地内バス運行開始
5	一般乗合旅客自動車一六両新造
6	自動車局金岡営業所新設
6	さやまりパープル開業
7	電子計算機OUK-九三〇〇導入 使用開始
7	貴志川線 輸送力増強のため モハ一〇五一形運行開始

3	大阪市電全廃
5	東名高速道路全線開通
6	都市再開発法公布
6	わが国最初の原子力船「むつ」進水
7	アポロ一号 人類初の月面着陸に成功
10	八幡 富士両製鉄の合併同意審決が公正取引委員会から下りる
12	大阪市営地下鉄 天神橋筋六丁目〜動物園前開通
12	この年 テレビ受像機生産台数一二六万台 世界第一位となる

昭和45年 一九七〇	昭和45年 一九七〇	昭和45年 一九七〇	昭和45年 一九七〇
7	7	1	1
高野線ステンレスカー(六八〇一形)三両新造	高野線ステンレスカー(六八〇一形)三両新造	乗合バス運賃改定(キロ当たり大阪府下六円九〇銭 和歌山県下七円六〇銭)	第三次佐藤榮作内閣成立
7	7	1	1
一般乗合旅客自動車六両新造	一般乗合旅客自動車六両新造		国産初の人工衛星打上げ成功
8	8	2	2
鶴原八号踏切道の地下道化完成	鶴原八号踏切道の地下道化完成		大阪市営地下鉄 新大阪〜江坂間開通
8	8	2	2
岸和田営業所内路線 ワンマンバス運行開始	岸和田営業所内路線 ワンマンバス運行開始		ミナミ地下街「虹のまち」開業
8	8	3	3
南海電気鉄道共済会設立 南海親和商事(株)設立	南海電気鉄道共済会設立 南海親和商事(株)設立		ジャンボジェット機 羽田空港に初着陸(パンアメリカン)
8	8	3	3
千代田検車区 車輪削盤使用開始	千代田検車区 車輪削盤使用開始		近畿日本鉄道 難波乗入れ
8	8	3	3
泉北高速鉄道 中百舌鳥〜泉ヶ丘間工事施行認可	泉北高速鉄道 中百舌鳥〜泉ヶ丘間工事施行認可		本州四国連絡橋公団設置(七月一日発足)
8	8	3	3
南海線通勤車(七一〇一形 七八五一形)一二両新造	南海線通勤車(七一〇一形 七八五一形)一二両新造		泉南市制施行
8	8	3	3
一般乗合旅客自動車三二両新造	一般乗合旅客自動車三二両新造		山陽新幹線 六甲山トンネル貫通
8	8	3	3
一般貸切旅客自動車二両新造	一般貸切旅客自動車二両新造		三島由紀夫事件発生
9	9	4	4
和歌山港営業所内路線 ワンマンバス運行開始	和歌山港営業所内路線 ワンマンバス運行開始		国会で議会開設八〇周年式典
9	9	4	4
那賀営業所内路線 ワンマンバス運行開始	那賀営業所内路線 ワンマンバス運行開始		
9	9	4	4
南海線通勤車(七一〇一形 七八五一形)二四両新造	南海線通勤車(七一〇一形 七八五一形)二四両新造		
10	10	4	4
電子計算機による給与処理開始 コンピュータ本格稼働	電子計算機による給与処理開始 コンピュータ本格稼働		
10	10	4	4
高野線ズームカー(二二〇〇一形)八両新造	高野線ズームカー(二二〇〇一形)八両新造		
11	11	4	4
高野線急行の一部六両運転開始	高野線急行の一部六両運転開始		
11	11	4	4
南海電気鉄道健康管理センター完成	南海電気鉄道健康管理センター完成		
11	11	4	4
取締役加藤吉郎は常務取締役に就任 嶋村信男 磯海章 小松健二は取締役に西村半次郎は監査役に就任	取締役加藤吉郎は常務取締役に就任 嶋村信男 磯海章 小松健二は取締役に西村半次郎は監査役に就任		
11	11	4	4
専務取締役市川壽雄 同田邊勇 同上西勲 監査役中村利孝は退任	専務取締役市川壽雄 同田邊勇 同上西勲 監査役中村利孝は退任		
11	11	4	4
業務組織変更(ゼネラルスタッフ 本社組織 現業部門という構成で三室三本部一支社となる)	業務組織変更(ゼネラルスタッフ 本社組織 現業部門という構成で三室三本部一支社となる)		
12	12	5	5
社内誌「親和」を「南海人」と改題	社内誌「親和」を「南海人」と改題		
12	12	5	5
金剛駅橋上駅舎化工事完成	金剛駅橋上駅舎化工事完成		
12	12	5	5
一般乗合旅客自動車三両新造	一般乗合旅客自動車三両新造		

当社

一般

5・2	(株)大阪中央フェリー設立(資本金一億円)	―
5・16	北野田駅橋上駅舎化工事完成	―
5・15	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六八五一形) 四両新造	―
6・15	白浜保養所「南紀寮」閉鎖	―
6・	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六八五一形) 八両新造	―
6・	南海線通勤車(七一〇一形 七九五一形 七八五一形) 六両新造	―
6・	一般乗合旅客自動車二七両新造	―
7・1	湊駅こ線橋完成	―
7・3	南海線通勤冷房車運転開始(二八両)	―
7・21	自動車局泉北営業所新設	―
7・	変電所集中監視制御装置使用開始	―
7・	南海線通勤車(七一〇一形 七九五一形 七八五一形) 二二両新造	―
8・	三國ヶ丘駅地下道完成	―
9・1	業務組織変更(住宅事業部を開発事業本部から分離独立)	―
9・2	南海地所(株)設立(資本金一億円)	―
9・5	高野線スームカー(二二〇〇一形) 八両新造	―
10・	鉄軌道線旅客運賃改定	―
10・29	春木こ線人道橋完成	―
10・31	住吉東駅荷物営業廃止	―
10・	高野線スームカー(二二〇〇一形) 一二両新造	―
10・	一般貸切旅客自動車二両新造	―
11・	泉大津駅荷物営業廃止	―
11・10	中百舌鳥駅の移転新設工事完成	―
11・14	岸ノ里駅新ホーム完成	―
11・14	高野線列車種別選別装置使用開始	―
11・23	難波ノ住吉公園間折返し列車廃止 岸ノ里ノ住吉公園間方向別運転開始	―
11・23	汐見橋ノ住吉東間折返し列車を汐見橋ノ岸ノ里間折返しに変更 難波ノ河内長野間に区間急行を新設	―
11・23	中モズゴルフ場営業中止	―
11・	一般乗合旅客自動車五両新造	―
12・1	中モズ運動場を中モズグリーンパークと改称	―
12・1	南海小山田荘園造成工事着工	―
12・17	吉見整備工場着工	―
12・	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六八五一形) 四新造	―

― 物価 週刊誌八〇円 ふろ代三八円 理髪六〇〇円 大工日当
四〇〇〇円

昭和46年
一九七

1	10	自動車紀三井寺営業所新設	3	14	神戸市 市電最後の営業路線廃止
1	10	和歌山軌道線(和歌浦口)海南駅前間七・四キロ) 営業廃止	6	17	沖繩返還協定調印
1	10	バス和歌山印南線営業廃止	7	1	環境庁発足
1	14	河内長野橋本間複線化工事認可申請	7	30	岩手 雫石町上空で全日空ボーイング機と自衛隊機衝突 わが
1	1	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六八五一形) 八両新造	10	10	国最大の航空機事故
2	1	業務組織変更(不動産管理部の用地課を用地第一課と用地第二課に分割)	11	14	NHK近畿本部 総合テレビ番組全時間カラー化
2	2	中百舌鳥駅構内で泉北高速鉄道と軌道締結	12	16	青函海底トンネル起工
2	6	天下茶屋工場の台車検査場完成			札幌市交通局 案内軌道式地下鉄道開業
2	26	滝谷駅こ線完成			
2	2	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六八五一形) 八両新造			
2	2	一般乗合旅客自動車五両新造			
3	1	千代田検車区増築工事完成			
3	6	和歌山港支線延長区間営業開始〔築港町(旧和歌山港)〕水軒間三・一キロ)			
3	6	和歌山港駅を築港町駅と改称			
3	6	南海本線列車種別選別装置使用開始			
3	23	石津川橋りょう改築工事竣工			
3	31	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六八五一形) 八両新造			
3	3	一般乗合旅客自動車一八両新造			
3	3	一般貸切旅客自動車五両新造			
3	3	和歌山港支線CTC完成			
4	1	和歌山軌道線(市駅)新和歌浦間七・一キロ および公園前)国鉄和歌山駅前間一・五キロ) 営業廃止			
4	1	増資 新資本金六〇億六〇〇〇万円となる(増加分金六〇〇〇万円)			
4	1	泉北高速鉄道と高野線との相互直通運転開始 大阪府都市開発(株)から泉北高速鉄道の業務(駅務 運転 諸施設の保守など)を受託			
4	1	和歌山営業所の貸切バス部門を白浜急行バス(株)に譲渡			
4	1	高野線区間急行 ラッシュ時六両運転開始			
4	1	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六八五一形) 八両新造			
4	4	一般乗合旅客自動車一両新造			
5	4	業務組織変更(監理部監査課を廃止し 監査室を新設)			
5	4	泉大津九号一般地下道完成			
5	10	定款一部変更(発行株式総数を八億株に改め 株式の種類に関する規定を株式取扱規則に移す)			
5	5	一般乗合旅客自動車一〇両新造			
6	7	業務組織変更(開発部に南紀分室を新設)			
6	11	高野線通勤冷房車運転開始(一二両)			

6	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六八五一形)八両新造
6	南海線通勤車(七一〇一形 七九五一形)二両新造
7	増資 新資本金一〇〇億円となる(増加分金三九億四〇〇〇万円)
7	白浜保養所 南海はぐるま荘開設
7	吉見整備工場完成
7	業務組織変更(総合建設本部 橋本林間田園都市建設部を新設 自動車管理本部に吉見整備工場を新設)
7	鋼索線運賃改定
7	南海線通勤車(七一〇一形 七八五一形)四両新造
7	一般乗合旅客自動車一両新造
8	バス天下茶屋営業所 観光バス専用となる
8	バス路線堺市内循環四系統にコマリシャル放送開始
8	一般乗合旅客自動車一二両新造
9	皇太子殿下 美智子妃殿下が高野山へ
9	座席指定料金改定(新こうや号は二五〇円 そのほか一五〇円に)
9	和泉大宮一般地下道完成
9	松ノ浜駅こ線橋完成
9	帝塚山一号踏切道こ線橋完成
9	一般乗合旅客自動車三両新造
10	駅管轄区域変更
10	石津川橋りょう架替え
10	高石無線局および交換局新設
10	高石駅前ビル着工
10	南海線通勤車(七一〇一形 七九五一形 七八五一形)一四両新造
10	一般乗合旅客自動車三六両新造
11	検車指令区新設
11	高野線荷物列車廃止
11	業務組織変更(①社長室を新設して秘書部と監査部を設置 ②車両部に車両課を新設 ③開発部を開発第一部および開発第二部に ④不動産管理課を不動産部に改称 管理課と活用課を廃止し 経営第一課と経営第二課に ⑤徳島事務所を新設 ⑥監理部を関連事業部に 南海線連続立体化工事事務所を大阪市内連続立体化工事事務所に改称)
11	常務取締役池永政彦は専務取締役に 取締役田杉進一 同吉村茂夫
11	同嶋村信男は常務取締役に就任
11	甲村甫 邑井敬一 横山裕隆 杉澤伸也 岡田公意 上枝一雄は取締役に就任

取締役岡野清豪 同磯海章は退任

昭和47年 一九七二	昭 和 4 7 年	取 締 役 岡 野 清 豪 同 磯 海 章 は 退 任	
1・8	バス石見川線開通	1・24	グアム島で横井庄一元軍曹救出
1・11	社員クラブ道場「錬成館」完成	2・3	冬期オリンピック札幌大会開催
1・20	吉見ノ里駅荷物営業廃止	3・15	山陽新幹線 新大阪～岡山間開業
1・27	南海和歌山ビル着工	3・26	高松塚古墳から極彩色壁画発掘される
3・1	南海本線浜寺公園駅ほか一二駅で荷物営業廃止	5・13	大阪市 千日デパート火災
3・5	初芝駅改良工事完成	5・15	沖繩施政権返還 沖縄県発足
3・8	「難波住宅総合展示場」開設	6・11	田中角栄通産相 日本列島改造論発表
3・15	南海線ダイヤ改正	7・1	有線テレビ(CATV)法公布
3・24	高野線複線化工事第一工区(河内長野～三田市町間二・四キロ)着工	7・7	第一次田中角栄内閣成立
3・31	第三次輸送力増強等五か年計画終了(車両新造二五〇両 高石ほか四駅を橋上駅化する) 投資二四三億円	8・5	国鉄関西本線 奈良～湊町間電化完成
3・	一般乗合旅客自動車二両新造	9・29	日中国交回復
3・	一般貸切旅客自動車二両新造	10・29	中国から上野動物園にパンダ贈られる
4・1	南海住宅(株)設立(資本金一億円)	11・9	大阪市営地下鉄 玉出～住之江公園間開通
4・1	中モズ総合住宅展示場開設	12・22	第二次田中角栄内閣成立
4・25	南海開発関連各社連絡会発足		
4・	一般乗合旅客自動車一二両新造		
5・16	高野線木津川駅ほか一〇駅で荷物営業廃止		
5・26	難波駅改造整備建設工事着工		
5・	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六九五二形 六八五一形)六両新造		
5・	一般乗合旅客自動車一三両新造		
6・1	新社章制定		
6・7	橋本林間田園都市建設部の現地事務所完成		
6・9	高野線複線化工事第五工区(新紀見トンネル)着工		
6・13	七か月間責任事故皆無で陸運局長表彰		
6・25	和歌山県下乗合バス運賃改定(キロ当たり一二円〇〇銭)		
6・	自動車部門助役登用試験制度採用		
6・	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六九五二形)六両新造		
6・	高野線ズームカー(二二〇〇一形)四両新造		
6・	南海線通勤車(七一〇一形 七九五二形 七八五一形)二四両新造		
6・	一般乗合旅客自動車六両新造		
6・	一般貸切旅客自動車二両新造		
7・5	加太支線新CTC工事完成		
7・	一般乗合旅客自動車一一両新造		
8・2	南海電鉄グループ広報連絡会発足		

当社

一般

昭和48年	8	8	業務組織変更(商務調査室 堺市内連続立体化工事事務所新設)
1973	28	10	自動車と歌山営業所移転新設(旧和歌山営業所と和歌山港営業所を統合)
	8	8	一般乗合旅客自動車二両新造
	9	1	羽倉崎車庫敷地に一般地下道完成
	9	29	南海線荷物列車廃止
	10	1	新制服採用
	10	1	南海本線大阪市内連続立体化工事着工
	10	1	南海線ダイヤ改正
	10	16	南海熊交興業(株)設立(資本金三〇〇〇万円)
	10	16	初芝総合事務所完成
	10	16	一般乗合旅客自動車二両新造
	11	1	(株)南海和歌山ビルディング設立(資本金二〇〇〇万円)
	11	1	大阪府下乗合バス運賃改定(キロ当たり九円八〇銭)
	11	1	南海バス(株)と白浜急行バス(株)が合併 南海白浜急行バス(株)に(資本金一億六〇〇〇万円)
	11	1	堺東駅の駅群管理システム使用開始
	11	16	南海貝塚ビルディング着工
	11	30	高石独身寮新設(一二月一六日入寮)
	12	1	業務組織変更(開発第一工事業企画課を開発事業本部直属とし 開発第二部に開発課新設)
	12	1	新和歌山市駅の自動改札機など駅施設使用開始
	12	1	千代田車庫留置線を五線増線
	12	1	南海本線堺市内連続立体化工事着工
	12	10	住吉東駅改良工事完成
	12	10	高野線ダイヤ改正 準急一部六両運転
	12	10	沢ノ町駅前商業施設開業
	12	21	一般乗合旅客自動車六四両新造
	12	21	一般貸切旅客自動車三両新造
昭和48年	2	1	南海埠頭(株)設立(資本金三〇〇〇万円)
1973	2	6	紀ノ川変電所無人化工事完成
	2	12	南海証券代行(株)設立(資本金一〇〇〇万円)
	2	25	狭山駅橋上駅舎化工事完成
	2	25	一般乗合旅客自動車一〇両新造
	3	12	鶴原駅地下道完成
	10	8	ベトナム戦争終結(和平協定調印)
	17	13	京阪神急行電鉄は阪急電鉄と改称
	17	10	春闘史上初のゼネスト決行
	7	10	中央西線で振子電車営業運転開始
	8	10	金大中事件発生
	10	17	OPEC「石油戦略」発動 オイルショック起こる

3	葛葉変電所無人化工事完成
3	貸切バス運賃改定
3	高師浜支線高架下商業施設一部開店
3	主任事務員・主任技術員登用試験制度採用
3	一般貸切旅客自動車三両新造
3	業務組織変更(総務部株式課を廃止)
4	「南海道総合開発委員会」発足
4	自動車河内長野出張所を河内長野営業所に格上げ
4	サントピアマリナ(株)設立(資本金五〇〇〇万円)
4	一般貸切旅客自動車三両新造
4	南海和歌山ビル完成記念乗車券発売
5	春木ショッピング南海開業
5	中モズミニゴルフ場開業
5	南海和歌山ビルディング開業
5	鳴門ハイランド(仮称)起工式
5	南海線通勤車(七一〇一形 七九五二形 七八五二形)六両新造
5	一般貸切旅客自動車三両新造
5	和歌山市内ワンマンバスに「愛の座席」設置
6	南海貝塚ビルディング完成
6	南海線荷物列車廃止
6	南海線通勤車(七一〇一形 七九五二形 七八五二形)二六両新造
6	一般貸切旅客自動車三両新造
6	一般乗合旅客自動車二四両新造
6	業務組織変更(和歌山市駅ビル建設事務所を廃止)
7	羽倉崎車庫増強工事完成
7	バス泉佐野地区ワンマンカー化
7	(株)南海航空サービスと(株)南海交通社が合併(株)南海国際旅行に(資本金八億円)
7	一般乗合旅客自動車六両新造
8	自動車河内長野営業所内ワンマンカー化
8	三門市町駅橋上駅舎完成
8	尾崎駅橋上駅舎完成
8	岸和田営業所内ワンマンカー化(府下バスのワンマンカー化完了)
8	一般乗合旅客自動車二五両新造
9	一般乗合旅客自動車一両新造
9	列車無線使用開始(高野線)
10	増資 新資本金二二〇億円となる(増加分金二〇億円)
10	高野線電圧一五〇〇ボルトに昇圧

10・23 江崎玲於奈 ノーベル物理学賞受賞決定

昭和49年 一九七四	12	12	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10																		
	24	7	1	1	1	1	20	10	10	19	6	2	1	16	10	10	10	10	10																		
難波西仮駅完成	南海線客車(一一〇〇一形) 九両 京福電鉄へ売却	春木川橋りょう架替え	住ノ江倉庫(元火力発電所) 撤去	和歌山県下乗合バス運賃改定(キロ当たり一五円三〇銭)	高野線複線化工事第六工区(紀見峠〜御幸辻間) 着工	高野線河内長野〜三門市町間複線化完成 営業運転開始	一般乗合旅客自動車一両新造	一般貸切旅客自動車一両新造	一般貸切旅客自動車五両新造	取締役鈴木剛は辞任	南海線通勤車(七一〇一形 七九五二形 七八五二形) 一二両新造	一般乗合旅客自動車一七両新造	さやま遊園アイスクリーム場開業	南紀大島観光開発(株)設立(資本金一億五〇〇〇万円)	難波列車区合宿所の移転新築工事完成	専務取締役久保亀夫 同高橋重雄は副社長に 常務取締役田杉進一	同加藤吉郎 同吉村茂夫は専務取締役に 取締役小松健二 同甲村甫	同邑井敬一 同岡田公意は常務取締役に就任	松岡史郎 佐野方治 松川義一 浅井孝二は取締役に就任	取締役副社長藤谷昂二 同増田金一は退任	金剛駅 自動改札機使用開始	南海くまどりニュータウン着工	高野線ステンレスカー(六一〇一形 六九五二形 六八五二形) 八両新造	一般乗合旅客自動車一二両新造	業務組織変更(①技師長を新設 ②商務調査室を廃止し 新規事業企画室を新設 ③関連事業部の課制を廃止 ④不動産部を不動産経営部とし 経営第一課 経営第二課 経営第三課を設置 ⑤用地部を新設)	貴志川線と歌山二号踏切道を地下道化	バス鶴山台団地線営業開始	泉北高速鉄道泉ヶ丘〜梅・美木多間(二・四キロ) 営業開始	陸運局長から「運転無事故表彰」をうける(連続四期)	一般乗合旅客自動車四三両新造	ルパン島で小野田寛郎元少尉救出	国土利用計画法公布	国土庁発足	佐藤栄作 ノーベル平和賞受賞決定	阪和自動車道開通(阪南町〜海南市間)	なんば地下街「なんなんタウン」開業	三木武夫内閣成立

12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	9	9	9	9	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6	5	5	5	5																																							
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	9	9	9	9	8	7	7	7	7	6	6	6	6	6	5	5	5	5																																							
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																																							
和歌山県下乗合バス運賃改定(キロ当たり一八円八〇銭)		南海本線新今宮駅南側架道橋 橋桁架替工事完成		技術開発室に改組 ③六六課から五七課に縮少簡素化		設 ②経営企画室 技術企画管理室 新規事業企画室を総合企画室		業務組織変更 ①事業本部(鉄道 自動車 不動産経営 関連 開		業務組織変更 ①事業本部(鉄道 自動車 不動産経営 関連 開		一般乗合旅客自動車四両新造		高野線ステンレスカー(六一〇一形 六五〇一形) 一二両新造		山本弘は監査役に就任 監査役西村半次郎は退任		南海泉大津ビルディング完成		座席指定料金改定		岡田浦駅 羽倉崎駅地下道完成		関西新空港問題研究会発足		一般乗合旅客自動車五両新造		難波駅改造整備建設工事第一期工事完成 南海本線新ホーム使用開始		箱作駅こ線橋完成		高野線ダイヤ改正(夕方ラッシュ下り急行六両化)		南海電鉄関連企業協同組合設立		増資 新資本金一二六億円となる(増加分六六億円)		一般乗合旅客自動車八両新造		新今宮駅構内 水崎町架道橋橋桁架替工事完成		淡輪駅地下道完成		南海電鉄ホテル旅館サービスチェーン協議会が発足		一般乗合旅客自動車三両新造		一般乗合旅客自動車四両新造		鉄軌道線旅客運賃改定		浅香山駅橋上駅舎完成		南海交通(株)は南海タクシー(株)と改称		大阪府下乗合バス運賃改定(キロ当たり一三円七〇銭)		吉見整備工場にテープ録音室完成		バス全路線のワンマンカー化完了		泉大津駅橋上駅舎完成		業務組織変更(①開発企画部を新設 開発第一部と開発第二部を統合し開発部に ②橋本林間田園都市建設部に課を新設)		一般乗合旅客自動車三九両新造		自動車海南営業所新設(藤白浜出張所を格上げ)		南海道流通開発(株)設立(資本金五〇〇〇万円)	

当社

昭和50年 一九七五	昭五五年を目標とする長期構想」発表	「昭五五年を目標とする長期構想」発表	
1・23	「昭五五年を目標とする長期構想」発表	3・10	山陽新幹線 岡山～博多間開業
2・1	泉大津駅東出口新設	5・1	わが国初の海上空港「長崎空港」開港
3・1	電子計算機を大型機OUK-19700にレベルアップ	7・19	沖繩海洋博覧会開幕
3・26	一般乗合旅客自動車八両新造	7・20	府立青少年海洋センター開設
4・26	難波列車区羽倉崎合宿所完成	8・23	中央自動車道恵那山トンネル開通（日本最長の自動車トンネル 八四八九メートル）
4・26	一般乗合旅客自動車四両新造	10・1	国勢調査実施 人口一億一九三万九六四三人
4・26	一般貸切旅客自動車三両新造	11・6	カシオ計算機 四五〇〇円の電卓発売 低価格競争時代に入る
5・2	南海西友ストア（狭山ニュータウン内）第一号店完成 営業開始	11・26	公労協「スト権奪還」スト突入 国鉄全面ストツブ
5・2	南海建設（株）と（株）西田工務店合併 南海建設（株）に（資本金一五億 七五〇〇万円）	12・14	国鉄最後の客車用蒸気機関車 室蘭～岩見沢間を運転 SLフ アン殺到
5・8	高野線「新」紀見トンネル貫通（一八五三メートル）		
5・19	副社長高橋重雄は常任監査役に 取締役松川義一は常務取締役 監査 役山本弘は取締役に就任 専務取締役田杉進一は退任		
5・26	創業九〇周年記念乗車券第一集（明治シリーズ）発売		
6・6	増資 新資本金一二七億二六〇〇万円となる（増加分金一億二六〇〇 万円）		
6・24	千代田車庫留置線を二線増設		
6・24	高野線ステンレスカー（八〇〇一形 八五〇一形）四両新造（電機子 チョップパー車）		
7・1	一般乗合旅客自動車四両新造		
7・1	三国ヶ丘駅北側駅舎新設		
7・1	一般乗合旅客自動車一両新造		
8・1	創業九〇周年記念乗車券第二集（大正・昭和シリーズ）発売		
8・5	就業基準改定等労使交渉解決（三月三日提案）		
8・20	南海フェリー（株）設立（資本金二億円）		
8・20	一般乗合旅客自動車二両新造		
9・3	就業基準改定に伴う希望退職三〇二人		
9・10	大阪府下乗合バス運賃改定（キロ当たり一七円三〇銭）		
9・10	一般乗合旅客自動車二両新造		
10・1	創業九〇周年記念乗車券第三集（現代シリーズ）発売		
10・16	軌道線電車でポテイ広告		
10・16	紀ノ川三号踏切道の地下道化完成		
10・19	河内長野駅こ線橋完成		
10・19	一般乗合旅客自動車八両新造		
11・1	高野線ダイヤ改正（ラッシュ時一部八両運転開始）		
11・1	堺東列車区橋本支区建物完成		

昭和51年 一九七六	12 27	12 19	12 16	12 16	12 15	12 13	12 12	12 9	12 9	11 1	11 1	11 15	11 12
「一割向上 一割節約」運動が年間運動としてスタート	一般乗合旅客自動車九両新造	開通九〇周年	「一割向上 一割節約」運動が年間運動としてスタート	バス黒鳥線の一部(和泉府中車庫前)繁和住宅前間〇・六km)を廃止	泉北高速鉄道運賃改定	一般乗合旅客自動車一両新造	さやま遊園内新設スケートリンク館開業	吉見ノ里無線交換局新設使用開始(これにより貝塚中継基地廃止)	一般乗合旅客自動車二両新造	南海中央フェリー(株)(泉北港)淡路島志筑港)の航路運休	一般乗合旅客自動車一両新造	一般貸切旅客自動車三両新造	鉄軌道線・バスの暫定運賃廃止
和歌山バス(株)営業開始(和歌山地区乗合自動車事業(橋本営業所	高野山営業所に所属するものを除く)を和歌山バス(株)に譲渡)	新紀見トンネル使用開始	フェリエンドルフ鳴門の第一期工事完成 レストラン「シーンプルク」営業開始	「自力更生三か年計画」策定	「南海グループホークス後援会」発足	一般乗合旅客自動車七両新造	一般貸切旅客自動車一両新造	南海地所(株)は和歌山県白浜町に「ラ・メール白浜」を造成 分譲開始					
大阪市と堺市を結ぶ吾彦大橋開通	鹿見島で五つ子誕生	ロッキード疑獄事件発生	国鉄 現役SL全て消える	国鉄新幹線乗客一〇億人突破	東海道新幹線に禁煙車登場(こだま一六号車)	福田起夫内閣成立							

5・22

バス小深線（観心寺〜小吹台間一・三km）を路線延長
バス三井団地線（サニータウン南口〜サニータウン間〇・五km）を路線延長

6・1

創業九〇周年記念映画「たくましく明日を創造する」完成
軌道線（上町線全線四・六kmと 阪堺線・住吉〜我孫子道間一・六km）でワンマンカー運転開始

7・1

「泉佐野シヨップ南海」営業開始

7・2

南海不動産（株）「南海くまどりニュータウン」の分譲開始

7・8

一般乗合旅客自動車一両新造

7・8

一般乗合旅客自動車二両新造

8・

熊取団地へのバス路線営業開始

9・1

「わかやまフリーサービック」発売

9・1

河内長野野橋上駅舎使用開始

10・16

南海本線堺駅貨物営業廃止

10・30

天皇陛下御在位五〇年記念乗車券発売

11・12

南海橋本林間田園都市建設工事起工

11・19

監査役浅田敏章逝去

11・21

難波駅改造・第二期工事完成 高野線の新ホーム使用開始

11・29

六か月間責任事故皆無で陸運局長表彰

11・

一般乗合旅客自動車三両新造

12・1

創業九〇周年記念史「創造と前進の一〇年」発刊

12・21

住吉東駅管内の出札業務を自動化

12・30

バス「堺・あびこ線」営業開始

昭和52年
一九七七
増資資本金二九億八〇五二万円となる（増加分金二億五四五二万円）
難波駅ほか四駅で乗車券発行装置使用開始

業務組織変更 人事第二部新設

「職場管理研究大会」開催（第一回）

北野田駅管内の出札業務を自動化

春木駅 貝塚駅の貨物営業廃止 南海本線から貨物列車消える

一般乗合旅客自動車二両新造

沢ノ町駅に「生徒専用出口」設置

「南紀サニーアイランドホテル」営業開始

堺東駅管内の出札業務を自動化

一般乗合旅客自動車一両新造

3・3

アメリカ ソ連 領海二〇〇カイリを同時実施

3・1

神戸市初の地下鉄 名谷〜新長田間開業

6・13

有田市で集団コレラ発生

7・14

わが国初の静止気象衛星「ひまわり」打上げ

9・15

巨人軍 王貞治 七五六本の本塁打世界記録達成

10・3

大阪市営地下鉄 御堂筋線梅田〜難波間で朝夕のラッシュ時ホームでの禁煙タイム実施

当社

一般

9	9	一般乗合旅客自動車一両新造	
9	9	一般貸切旅客自動車一両新造	
10	7	大阪府下の乗合バス運賃改定	
11	11	堺 泉大津 岸和田の各駅に定期券発行装置を新設	
11	18	運輸教習所改築工事竣工	
11	19	難波駅「中央口」(二階)使用開始 二階改集札を自動化	
11	19	難波駅中央口に「南海総合住宅センター」開設	
11	30	「住吉ショッピング南海」営業開始	
12	12	難波駅三階改集札を自動化	
12	23	和歌山県下の乗合バス運賃改定	
12	23	一般乗合旅客自動車二両新造	
1	23	高野線ダイヤ改正 上り準急三本を八両編成に増結	1
2	15	羽衣駅橋上駅舎使用開始	1
2	15	業務組織変更 流通事業本部を新設 不動産経営事業本部を不動産事業本部に改称	5
2	15	一般乗合旅客自動車一両新造	4
3	15	「黄金の日日」フリー乗車券発売(軌道線・バス)	1
3	24	泉北ニュータウン狭山ニュータウン間にバス路線開設	10
3	26	取締役奥平泉一逝去	2
3	26	高野線ステンレスカー(六二〇一形 六五〇一形)六両新造	30
4	1	(株)ホリデイイン南海(資本金二億円) 南海ビルサービス(株)(資本金一〇〇〇万円)設立	12
4	1	週休二日制実施	7
4	2	堺市内で「史跡めぐり観光バス」運行開始	
4	2	一般乗合旅客自動車四両新造	
4	2	一般貸切旅客自動車五両新造	
6	1	高架部の住ノ江駅舎営業開始	
6	1	ショッピング南海「住ノ江ギャラリー」開設	
6	1	泉佐野 尾崎 みさき公園の各駅に定期券発行装置設置	
6	4	六か月間責任事故皆無で 陸運局長表彰	
6	19	牧野耕二は取締役就任	
6	20	業務組織変更 従来の一二本部 三六部 五五課を 一一本部 三〇部 四八課に縮小	
7	7	「羽衣ショッピング南海」営業開始	
7	8	手・小荷物運賃改定	
7	22	河内長野駅の商業施設営業開始	

昭和53年
一九七八

1	14	伊豆大島近海地震発生	
4	5	サンシャインビル東京池袋に完成(日本一 二四〇m六〇階)	
5	5	新東京国際空港開港式	
8	12	日中平和友好条約締結	
9	30	京都市電全廃	
10	2	国鉄紀勢本線新宮と和歌山間電化	
12	7	第一次大平正芳内閣成立	

7.23 初芝駅の駅舎改造工事完成 使用開始
 8.6 淡路航路に新鋭高速艇就航 難波～洲本港間の所要時間大幅短縮
 8.12 鉄軌道線運賃改定申請
 9. 一般乗合旅客自動車二両新造
 10.3 選択定年制度実施
 10.9 軌道線車両 京都市交通局から六両購入
 11.2 なんばCITY 第一次営業開始
 12.15 鉄軌道線運賃改定が認可される
 12.15 堺市内バス路線再編成を実施 新「堺営業所」光明池営業所の使用開始
 12.15 「初芝シヨップ南海」営業開始
 連続二期責任事故皆無で陸運局長表彰

昭和54年
一九七九

1.8 鉄軌道線運賃改定実施
 1.25 「萩原天神シヨップ南海」営業開始
 3.2 「羽倉崎シヨップ南海」営業開始
 3.25 南海本線季節特急「みさき号」(全座席指定)運転
 4.1 バス堺市内 岸和田市内新路線運行開始
 4.6 南海河内長野ビル竣工「河内長野シヨップ南海」営業開始
 3.14 都市型ホテル「ホリデザイン南海大阪」営業開始
 4.28 監査役栗本順三逝去
 4. 一般乗合旅客自動車四両新造
 5.9 住吉公園駅を住吉大社駅と改称
 5.26 高野線複線化工事 天見～紀見峠間完成 複線開通
 5. 一般乗合旅客自動車三両新造
 6.3 高野線ダイヤ改正
 6.7 「紀ノ川シヨップ南海」営業開始
 6.8 連続三期責任事故皆無で陸運局長表彰
 6.8 「高野線複線化工事一部完成」記念乗車券発売
 6.19 業務組織変更 能力開発部新設
 6.19 取締役副社長池永政彦 常務取締役邑井敬一 同松川義一 取締役松岡史郎 同宇治田久彌 常任監査役高橋重雄は退任
 高岡茂夫 村尾博 岡本和夫 川勝泰司 芝谷昭 村井照夫は取締役に 取締役副社長久保亀夫は常任監査役に 北尻得五郎は監査役に就任
 6. 一般乗合旅客自動車二両新造
 7. 一般乗合旅客自動車一〇両新造
 8.28 高架部の粉浜駅が完成 営業開始

1.13 国立大学 共通一次試験実施
 1.25 上越新幹線の大清水トンネル貫通(世界最長の山岳トンネル)
 5.8 日本電気 パーソナルコンピュータ発表(パソコンブームの口火となる)
 5.10 関西新空港泉州沖建設への環境アセスメント開始(飛行騒音テスト)
 5.12 本州四国連絡橋 尾道～今治ルートの大三島橋開通
 6.20 大阪市営地下鉄に冷房車登場
 6.28 東京サミット開催
 11.9 第二次大平正芳内閣成立
 12.12 国鉄宮崎浮上式試験センターでリニアモーターカー時速五〇四km記録

8・8 南海ビル 正面外壁化粧なおし着工
 8・8 一般乗合旅客自動車八両新造
 9・9 一般乗合旅客自動車九両新造
 10・10 阪堺線をワンマンカー化
 10・10 「あびこシヨップ南海」営業開始
 10・10 大阪府下乗合バス運賃改定
 11・11 一般乗合旅客自動車一両新造
 11・11 「泉佐野(北)シヨップ南海」営業開始
 11・11 「修正三か年計画」策定
 12・12 一般乗合旅客自動車五両新造
 12・12 「シヨップ南海金剛」営業開始
 12・12 連続四期責任事故皆無で陸運局長表彰
 12・12 一般乗合旅客自動車二両新造

昭和55年
一九八〇

1・1 一般乗合旅客自動車一〇両新造
 2・2 南海電鉄グループ関西新空港協議会発足
 2・2 監査役垂井清之助逝去
 2・2 南海観光バス(株)設立(資本金九〇〇〇万円)
 2・2 一般乗合旅客自動車一四両新造
 3・3 「なんばCITY」全館営業開始
 3・3 難波駅構内に「南海電鉄総合案内所」開設
 3・3 難波駅「南口」新設
 3・3 一般乗合旅客自動車一両新造
 3・3 一般貸切旅客自動車六両新造
 4・4 南海観光バス(株)に貸切バス事業を営業譲渡
 4・4 堺市内高架化工事 堺駅周辺上り線を一部仮線に切り替え(下り線は同一五日に)
 4・4 南海橋本林間田園都市「城山台」個人分譲開始
 4・4 「シヨップ南海住吉」営業開始
 4・4 一般乗合旅客自動車三両新造
 5・5 一般乗合旅客自動車五両新造
 6・6 業務組織変更 ①総合企画室と技術調査室を統合 「総合企画調査室」に ②流通事業本部に三部設置 ③不動産事業本部に用地部を統合 二部設置
 6・6 難波駅にガラスモザイク壁面完成
 6・6 「難波駅壁面完成記念乗車券」発売
 6・12 南海本線玉出〜大和川間「高架複々線」完成 使用開始

2・20 京阪電気鉄道 置石による急行列車脱線転覆事故
 6・22 初の衆参同日選挙実施
 7・17 第一次鈴木善幸内閣成立
 9・9 イランイラク全面戦争

昭和56年 一九八一	昭和56年 一九八一	昭和56年 一九八一
6・15	「大阪市内（玉出）と大和川間」連続立体化工事完成」記念乗車券発売	
6・15	南海線ダイヤ改正	
6・15	一般乗合旅客自動車八両新造	
7・7	阪堺電気軌道(株)設立(資本金四億五〇〇〇万円)	
7・10	「南海電鉄グループ代表者懇談会」発足	
7・20	淡路航路にわが国初の「ホバーマリン」就航	
7・20	一般乗合旅客自動車四両新造	
8・3	バス高野竜神スカイライン線運行開始	
8・21	平野線の運輸営業廃止申請	
8・21	一般乗合旅客自動車四両新造	
9・1	南海線PTC(列車運行管理システム)使用開始	
9・1	一般乗合旅客自動車五両新造	
10・6	バス「高野竜神スカイライン記念乗車券」発売	
10・6	一般乗合旅客自動車一両新造	
11・1	一人一件改善提案運動実施(第一回)	
11・4	御幸辻駅前と城山台センター間にバス路線開設	
11・4	高野線複線化工事 下天見トンネル貫通	
11・14	鉄道線運賃改定申請	
11・21	難波駅改造整備建設工事竣工	
11・21	「平野線さよなら記念乗車券」発売	
11・23	難波駅新① ②番線ホームの使用開始	
11・23	高野線ダイヤ改正	
11・23	「なんば駅完成記念乗車券」発売	
11・28	平野線の営業廃止	
11・28	一般乗合旅客自動車八両新造	
12・1	阪堺線 上町線の軌道業を阪堺電気軌道(株)に営業譲渡	
12・1	一般乗合旅客自動車三両新造	
1・1	一般乗合旅客自動車三両新造	
2・27	「シヨップ南海さやま」営業開始	
2・27	一般乗合旅客自動車二両新造	
3・25	「こうや号」「四国号」などの座席指定券発行をコンピュータとオンライン化	
3・27	「シヨップ南海三日市」営業開始	
3・27	一般乗合旅客自動車一両新造	
4・28	鉄道線運賃改定認可される	
4・28	一般乗合旅客自動車三両新造	
5・6	鉄道線運賃改定実施	
2・5	神戸新交通 ポートアイランド線開通	
3・16	大阪市 南港ポートタウン線開業	
3・19	神戸 ポートピア81開幕	
5・29	京都地下鉄 北大路と京都間開業	
6・9	改正商法公布(昭和五十七年一〇月一日施行)	
6・22	大阪 滝畑ダム完成 貯水開始(大阪府下最大)	
7・26	福岡市交通局地下鉄一号線(室見と天神間)開業	
10・19	福井謙一 ノーベル化学賞受賞	
11・27	行政改革法成立	
11・30	第二次鈴木善幸内閣成立	

当社

一般

5・15 連続三期責任事故皆無で陸運局長表彰
 5・18 一般乗合旅客自動車三両新造
 6・18 専務取締役吉村茂夫は副社長に 取締役高岡茂夫 同村尾博 同岡本和夫 同川勝泰司 同芝谷昭 同村井照夫は常務取締役に就任
 若竹義勝 道本隆美 橋本茂は取締役に 常務取締役横山裕隆は常任監査役に 山東永夫は監査役に就任
 専務取締役岡田公意 常務取締役小松健二 常任監査役久保亀夫は退任
 6・1 一般乗合旅客自動車八両新造
 7・1 紀伊清水極楽橋間CTC装置改良
 7・7 南三日市台(仮称)起工
 7・7 南海自動車興業(株)は南海車両工業(株)に社名変更
 7・7 一般乗合旅客自動車六両新造
 8・13 連続三期責任事故皆無で陸運局長表彰
 8・13 高野線ステンレスカー(六二〇一形 六五〇一形)一六両新設
 10・14 大阪府下乗合バス運賃改定
 11・3 川勝社長が勲一等瑞宝章受章
 11・4 高野線複線化工事 石仏トンネル貫通
 11・11 高野線複線化工事 「林間田園都市駅」開業
 11・22 高野線ダイヤ改正 一〇両運転開始
 11・22 「林間田園都市駅開業記念乗車券」発売
 11・22 バス林間田園都市線・林間田園都市駅前・城山台北系統路線を新設
 11・1 一般乗合旅客自動車二両新造
 12・1 「五枚セット学文路駅入場券」発売
 12・11 「ショップ南海浜寺」営業開始
 12・12 和歌山県下乗合バス運賃改定
 12・21 羽倉崎検事区へ移設の車輪転削盤使用開始
 12・22 連続四期責任事故皆無で陸運局長表彰
 12・25 「三社詣 初詣記念乗車券」発売
 一般乗合旅客自動車一両新造

昭和57年 一九八二

1・1 南海親和商事(株)は南海商事(株)に社名変更
 1・31 一般乗合旅客自動車五両新造
 1・31 堺市内高架化工事 堺上り仮駅使用開始
 2・31 南海線ダイヤ改正
 3・1 一般乗合旅客自動車一両新造
 千代田工場操業開始

2・8 東京 ホテルニュージャパンで大火災
 2・9 日航機 羽田空港着陸失敗事故発生
 4・1 五〇〇円硬貨発行
 4・12 春闘私鉄大手 一四年ぶりにストなし解決
 6・23 東北新幹線 大宮盛岡間開業
 7・31 九年ぶりに堺大魚夜市復活

昭和58年
一九八三

2 1
・

2 1
・ 4 27

一般乗合旅客自動車二両新造
一般乗合旅客自動車八両新造
青函トンネル先進導坑貫通（着工以来一九年ぶり）
实用静止通信衛星「さくら」二号a」打上げ成功

12 12
・ 23 1

一般乗合旅客自動車二両新造
連続六期責任事故皆無で陸運局長表彰
一般乗合旅客自動車二両新造

12 12
・ 1 19

一部業務組織変更 流通事業本部内にスポーツ事業部新設
南海本線堺駅周辺整備構想発表

10 10
・ 28 2

一般乗合旅客自動車二両新造
「なんばPier」営業開始

10 10
・ 2 1

河内長野小吹台団地「千早赤坂中学校間ノンストップバス運行開始」
「南海西友ストア」城山店」営業開始

9 9
・ 4

大卒新入社員の海外研修実施（第一回）
一般乗合旅客自動車二両新造

9 9
・ 19 1

一般乗合旅客自動車四両新造
住ノ江総合事務所竣工

8 8
・ 19 1

「シヨップ南海貝塚」営業開始
一般乗合旅客自動車二両新造

7 7
・ 9 8

「第四次四か年計画」策定
「シヨップ南海沢ノ町」営業開始

7 7
・ 9 8

連続五期責任事故皆無で陸運局長表彰
「シヨップ南海沢ノ町」営業開始

7 7
・ 1 1

一部業務組織変更 総合企画調査室を総合経営企画室に改め 同室に
監理部と関連事業本部を統合

6 6
・ 18 11

バス営業所にオフコン導入
一般乗合旅客自動車三両新造

6 6
・ 18 11

常務取締役杉澤伸也は専務取締役に就任
一般乗合旅客自動車三両新造

5 5
・ 12

電子計算機HITAC M1240H二台が稼働
一般乗合旅客自動車二両新造

4 4
・ 19 16

バス運行開始
泉北ニュータウン内プール学院と泉北高速 泉ヶ丘駅間ノンストップ

4 4
・ 3 1

バス立里線運行経路変更
界磁チヨップバス六両運転開始

3 3
・

高野線ステンレスカー（八二〇一形 八七〇一形）六両新造（界磁チヨップバス）
一般乗合旅客自動車六両新造

11 11
・ 15 15

上越新幹線 大宮「新潟間開業」
第一次中曽根康弘内閣成立

9 9
・ 2 21

堺市の化学工場大爆発 周辺に被害
国鉄 リニアモーターカー世界初の有人浮上走行成功
大阪貨物ターミナル駅開業（関西最大の貨物基地）

当社

一般

3・18	「とくしまCITY」新装開業	3・18	中国自動車道 着工以来一七年ぶりに全通
3・1	一般乗合旅客自動車二両新造	4・15	東京デイズニールランド開園
4・1	南海不動産(株)(株)南海会館(株)南海和歌山ビルディングの三社合併(南海不動産(株)に(資本金九億円))	4・16	私鉄大手八社 春闘二年連続ストナシ結着
4・1	業務組織変更 関西新空港対策室および情報システム部開発課を新設	5・26	日本海中部地震発生 死者不明一〇〇人を超す
4・1	鉄道事業本部三〇職場にフックシミリ設置	10・1	大阪築城四〇〇年まつり開幕
4・3	大阪市内高架化工事 天下茶屋西仮駅舎使用開始	10・22	白糖線サヨナラ列車運転(国鉄赤字ローカル線廃止第一号)
4・15	くまとりニュータウン線で急行バス運行開始	12・27	第二次中曽根康弘内閣成立
4・25	難波 堺東 泉ヶ丘(泉北高速鉄道)の三駅で禁煙タイム実施		
4・	一般乗合旅客自動車三両新造		
5・	特急こうや号(三〇〇一形 三〇一〇形)八両新造		
5・	一般乗合旅客自動車三両新造		
6・5	高野線千早口〜天見 紀見峠〜御幸辻間複線化完成		
6・5	高野線複線化工事千早口〜御幸辻間完成記念乗車券発売		
6・10	路線バスに冷房車運転開始		
6・24	連続七期責任事故皆無で陸運局長表彰		
6・26	高野線ダイヤ改正		
6・26	特急 新「こうや号」(三〇〇〇系)運転開始		
6・26	新「こうや号」運転記念乗車券を発売		
6・28	難波〜橋本間ビジネス特急(全座席指定)運転開始		
6・	社長川勝傳は取締役会長に 副社長加藤吉郎は取締役社長に 専務取締役嶋村信男は取締役副社長に就任		
6・	常務取締役高岡茂夫は取締役に就任		
7・3	一般乗合旅客自動車七両新造		
7・8	堺市内高架化工事上り線完成 南海線ダイヤ改正		
7・18	「ショップ南海井原里」営業開始		
7・21	新今宮駅コンコース改良工事竣工		
7・	(株)南海造園緑化センター(資本金五〇〇〇万円) 南海住宅流通サービス(株)(資本金一〇〇〇万円)設立		
8・	一般乗合旅客自動車一両新造		
8・	一般乗合旅客自動車四両新造		
9・6	鉄道線運賃改定申請		
9・	一般乗合旅客自動車二両新造		
10・1	大阪地区乗合バス運賃改定		
10・8	会員制総合スポーツクラブ「CITY SPORTS すみのえ」営業開始		
10・12	本社社員を対象に「OA教室」開設		

昭和59年 一九八四年	17	20	25	30	1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4	4	6	6	7	7	7	9	9	9	9	9
鉄道線運賃改定認可 第一回職場結合研究会開催 鉄道線運賃改定実施 六か月間責任事故皆無で陸運局長表彰 東松江 築港町駅の貨物営業廃止 「シヨップ南海忠岡」営業開始 高野線複線化工事 三日月町〜千早口間複線化完成 御坊南海バス(株)設立 高野線ダイヤ改正 ステンレスカーの林間田園都市駅乗入れ開始 「弘法大師御入定一五〇年御遠忌大法会記念乗車券」発売 高野線ステンレスカー(八二〇一形 八七〇一形)六両新造 南海粉浜北駐車場ほか駐車場開設 高野山弘法大師御入定一五〇年御遠忌大法会奉修中 臨時列車運転 (五月二〇日まで延参拝人一〇四万人 当社輸送人員三〇万一千人) 希望者に退職金の一部年金支給化を実施 滝畑ダムへ路線バス運行開始 「ホテル南海鳴門」営業開始 堺東ビル北館完成 堺東駅北口を開設 「シヨップ南海浜寺」営業開始 堺東駅南ビル竣工 業務組織変更「企画調査室」新設 総合経営企画室を経営計画室に 難波駅プラットホーム 一部冷房使用開始 橋本林間田園都市建設事業に対し建設大臣表彰 高野線複線化工事 美加の台駅開業 美加の台駅開業記念乗車券発売 一か年間責任事故皆無で近畿運輸局長表彰 関西国際空港(株)へ出資 南海美加の台 第一期二九区画分譲 天王寺支線 天下茶屋〜今池町間廃止申請 なんばCITY「ネットワークシヨップ」開設	一般乗合旅客自動車五両新造 一般乗合旅客自動車三両新造 和歌山地区乗合バス運賃改定 高野線複線化工事三日月町〜千早口間 一部新線に切換 こうや号座席指定券の自動販売機を 難波 新今宮 河内長野 橋本 各駅に設置 一般乗合旅客自動車五両新造	太平洋岸に記録的な大雪 鉄道 道路交通マヒ わが国初の実用放送衛星「BS-2a」打上げ 総理府が五八年の完全失業率二・六%で過去最高と発表 電電公社 日電 日立は世界で初めて一メガビットの超LSI の開発成功を発表 大阪空港の騒音公害訴訟が一四年ぶりに決着 グリコ事件発生 第三セクターで国鉄赤字線を継続した三陸鉄道が開通 私鉄大手の春闘 三年連続ストなし妥結 NHK衛星放送開始 奈良 脇本遺跡で最古の宮殿遺構を発掘 厚生省発表 五八年度簡易生命表でわが国は世界一の長寿国と なる(平均寿命男七四・二歳 女七九・八歳) 失業給付を改革した雇用保険改正法が成立 滋賀県議会「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例案」可決 衆院通信委で電電改革法案が可決 自治省が住民基本台帳発表 総人口は一億一九三二万人 増加 率は〇・六%と過去最低 全斗煥韓国大統領来日																											

◎参考文献

◎資料提供者

書名	著者・編者	発行年月	著者・編者	発行年月
阿倍野区史	川端直正	昭31・11	近畿日本鉄道	昭35・9
あゆみNo.16創業20周年記念号	南海会館	昭52・10	徳富猪一郎	昭10・7
岩崎弥太郎伝	和田忠之	昭53・1	富永祐治	昭28・1
大阪朝日新聞		明18・12	池田成彬	昭24・12
同右		大13・6	織田作之助	昭18・9
大阪時事新報		大13・6	日本経営史研究所	昭47・12
大阪案内(全)	日本電報通信社大阪支局	明42・4	其刊行会	昭35・7
大阪けんぶつ(復刻版)	藤の家主	昭51・2	三省堂	昭58・3
大阪市交通局75年史	大阪市交通局	昭55・2	池田成彬	昭24・12
大阪市会史第24巻	大阪市会事務局	昭55・3	実業之世界社	昭11・6
大阪市政九十年の歩み	大阪市総務局	昭54・7	鷲谷樗風	昭30・12
大阪商人その土性骨のうつりかわり	宮本又次	昭43・5	宮本又次・藤田貞一郎・宇田正	昭54・9
大阪人物誌	宮本又次	昭35・2	大阪スタヂアム興業	昭55・9
大阪丹後人会誌	永井貫一	昭13・2	阿部直躬	大11・5
大阪日日新聞		大2・6	廣田三郎	昭53・1
大阪日報		明18・9	大阪市交通局	昭44・3
大阪の町名	大阪町名研究会	昭52・12	坂元俊雄	昭8・9
大阪百年史	大阪府	昭43・6	遺徳顕彰委員会	昭31・6
大阪物語・続五代友厚	直木三十五	昭9・7	住吉区史	昭28・7
〔直木三十五全集第六巻〕			近畿車両	昭56・4
大阪毎日新聞		大13・6	宮本又次	昭35・12
大阪都新聞		大13・6	松本翁銅像建設会	大11・12
大阪歴史散歩	宮本又次	昭34・8	ダイキン工業	昭49・10
大林芳五郎伝	白田喜八郎	昭15・6	其刊行会	昭55・8
片岡直方君伝	高梨光司	昭25・11	丹後町	明17・5
片岡直輝翁記念誌	石川辰一郎	昭3・4	山崎義丈	昭51・3
株界五十年	小澤福三郎	昭8・1	鉄道省	大10・10
汽車と鉄道	岩崎磯五郎	昭17・10	模範鉄道社	昭7・5
郷土史にかがやく人々	宮本又次	昭43・3	関一	明44・9
近代大阪年表	NHK大阪放送局	昭58・5	日本交通協会	昭47・10
近代日本総合年表(第二版)	岩波書店	昭59・10	原田勝正	昭58・6
近代日本経営史の基礎知識	中川敬一郎・森川英正・由井常彦	昭56・3	鉄道図書刊行会	昭54・9
京阪七十年のあゆみ	京阪電気鉄道	昭55・4		
			50年のあゆみ	
			公爵松方正義伝	
			交通における資本主義の発展	
			故人今人(聞きとり)	
			五代友厚	
			五代友厚伝資料第三巻	
			五代友厚秘史	
			コンサイス人名辞典	
			財界回顧(聞きとり)	
			財界物故傑物伝(上・下二巻)	
			阪口祐三郎伝	
			佐々木政次伝	
			30年の歩み	
			三十年の回顧	
			実業人傑伝(復刻)	
			市電	
			忍草	
			関市長小伝	
			住吉区史	
			創業60周年記念最近10年のあゆみ	
			船場	
			雙軒松本重太郎翁伝	
			ダイキン工業50年史	
			大日本管轄分地図	
			大日本人名辞書	
			丹後町史	
			丹後地理要略	
			鉄道一瞥	
			鉄道	
			鉄道講義要領(第九版)	
			鉄道先人録	
			鉄道の語る日本の近代	
			鉄道ヒクトリアル	

鉄道ビクトリアル
 鉄道百年略史
 鉄道—明治創業回顧談
 寺田甚與茂翁偲び草
 寺田甚與茂翁小伝
 電車ストライキ
 電鉄生活三十年
 天王寺区史
 てんま
 東京曙新聞
 東京日日新聞
 75年のあゆみ
 浪速区史
 なにわ合昔
 浪速のロマン
 南海電気鉄道労働組合史
 南海と私
 南海道研究No.82・83
 南海ホークス40年史
 西成区史
 日本経済を育てた人々
 日本私有鉄道史研究
 日本鉄道史上・中・下
 日本鉄道創設史話
 日本統計年鑑
 日本の歴史23
 磐舟永田翁伝
 藤田傳三郎自伝(私家版)
 東区史(全五巻 復刻版)
 物価の世相100年
 松方正義
 松村家の人々
 南区史
 明治事物起原

鉄道図書刊行会
 鉄道図書刊行会
 沢 和哉
 覺慧才介
 岸和田紡績株式会社友会
 来田次郎
 太田光熙
 川端直正
 宮本又次
 阪急電鉄
 川端直正
 毎日シリーズ出版編集局
 大阪新聞社
 南海電気労働組合
 中山隆吉
 竹内正己
 南海ホークス
 川端直正
 高橋彌次郎
 中西健一
 鉄道省
 石井 満
 総理府
 今井清一
 野田廣二
 東区役所
 岩崎爾郎
 藤村 通
 戸田宗吉
 佐古慶三
 石井研堂

昭57・8
 昭47・10
 昭56・10
 昭7・12
 大15・2
 大14・6
 昭13・1
 昭30・10
 昭52・10
 昭6・2
 明9・10
 昭57・10
 昭32・2
 昭58・7
 昭42・12
 昭54・4
 昭58・3
 昭53・9
 昭43・10
 昭30・4
 昭38・11
 大10・8
 昭27・11
 昭57・3
 昭4・6
 明40・1
 昭57・10
 昭57・7
 昭41・7
 昭46・8
 昭3・12
 大15・10

明治・大正大阪市史
 明治鉄道物語
 明治ニューズ事典
 物語日本鉄道史
 輸送奉仕の五十年
 横山源之助全集第三巻
 世直し
 利権物語
 歴史への招待32
 労資之日本
 和歌山県史・近現代資料
 和歌山市史・近現代資料
 資料提供者(五十音順・敬称略)
 東 好和
 伊藤 七郎
 今井 繁
 上條 清子
 加藤 諦道
 杵川 久一
 木村 邦男
 佐々木 欽也
 塩見 猛
 下村 澄
 高橋 弘
 竹内 一男
 竹田 辰男
 大阪市役所
 原田勝正
 毎日コミュニケーションズ
 三崎重雄
 阪神電気鉄道
 横山源之助
 佐々木潤之助
 時事新報
 藤根井和夫
 工業之世界社
 和歌山県
 和歌山市
 武知 京三
 田中 藤夫
 故西尾 克三郎
 野村 勉
 原 登久雄
 広瀬 久吉
 本郷 喜三郎
 松岡 正義
 松本 重治
 松本 淳
 美濃部 源二
 宮本 又次

昭9・12
 昭58・10
 昭59・7
 昭17・10
 昭30・4
 昭49・9
 昭54・7
 昭30・4
 昭59・9
 大13・9
 昭57・1
 昭57・3

あとがき

本書は、南海電気鉄道が創業百周年を迎えるに当たり、これを記念する事業の一つとして作成したものである。その作成にたずさわったのは、昭和五十六年十月末に発足した「百年史編纂委員会」である。越えて五十七年一月事務局として、総務部に「社史編纂室」を設置、執筆者に作家、檜山邦祐氏〔元東洋経済新報社関西支社長〕を迎え、本格的な活動に移った。

当社の歴史を顧みれば、経営主体の変革、第二次世界大戦による被災もあり、資料収集は思うにまかせなかつた。活動開始から三年余の月日が経過した。その間、先人の遺した『阪堺鉄道経歴史』、『開通五拾年』、『南海鉄道発達史』、『南海七十年のあゆみ』の四通史とその後の『最近の一〇年』、『創造と前進の一〇年』の二つの一〇年史等の社史が、この上ない調査、執筆上の手引きとなった。

一面、私鉄業界では、当社が創業百年の先陣を承るとあっては、なにはさておいても、事実の追究とデータの正確さを第一義とした。前記の一連の社史群を参考とするに当たっても、及ぶかぎりそれぞれの作成に用いられた原資料にまでさかのぼることを原則とした。そうした作業過程の中で、古色蒼然たる記録文書が机上に置かれたときは、編纂室内に小さな衝撃波を起こした。中には、松方正義、井上勝ら日本の鉄道史上に残る人びとが署名した文書もある。それらの一部は、『南海鉄道発達史』——五〇年史に当たる——に使用されたものもあるが、大半は、今回はじめて陽の目を見たものと思われるものが少なくない。

墨筆で認められた文書の判読には、いささか悩まされたものの、読み下していくうちに公文書ながら手の温もりが伝わってくるようで、先人の苦勞が偲ばれる次第。そうした草創期の文書類が一括して発見されたのは、当社の汐見橋倉庫であった。その倉庫も、今回の社史編纂作業の進行中に取りこわされて、住ノ江の高架下へ移転していった。時の移り変わりを感ぜざるを得ない。

ところで、少し説明を加えておかねばならぬのは、本文の中で、初代社長松本重太郎に特別に一章を割いたことである。

明治は遠くなりにけり、といえはそれまでのことながら、松本重太郎の名前すら大方の南海人の脳裏に強い印象が強い。たしかに、その晩年は実業界を離れて市井の一隅に事志しを得ぬ日々を過ごしていた。それゆえ忘れられてよい人物か否か。

平凡なことばながら温故知新——創業者の生涯をふり返って、その中から明日への指針あるいはエネルギーが得られたならばという微意から、あえて松本重太郎の生涯の回顧に重点をおいた次第である。最後に、檜山氏をはじめ本書作成に惜しみなく協力を賜った各位に心から感謝申しあげます。

社史編纂室

道本隆美 大野博 佐々木文彦
宇澤久典 山口安教 山口皖造

南海電気鉄道百年史

昭和六十年五月十日発行

編集発行

南海電気鉄道株式会社

大阪市南区難波五丁目一番六〇号

印刷

大日本印刷株式会社

大阪市東成区玉津三丁目一二番